

平成29年度  
県民アンケート調査  
報告書

<概要版>

平成29年11月

奈良県

# 目次

<b>第1章 調査の実施概要</b>	<b>1</b>
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査票の配布・回収の状況	1
<b>第2章 調査結果の分析</b>	<b>3</b>
1. 県民の生活全般について	3
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
1-6 奈良県の住みやすさの評価	9
1-7 将来の奈良県での定住意向	10
1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について	13
3~12. 県民の生活に関する意識やニーズについて	21
3. 観光振興について	21
4. 雇用対策について	23
5. 健康づくりについて	25
6. 女性の活躍推進について	27
7. 子育て支援について	29
8. 文化振興について	30
9. スポーツ振興について	32
10. 安全・安心の確保について	34
11. 景観・環境の保全と創造について	38
12. エネルギー政策の推進について	39
13. 回答者に関すること	41

# 第1章 調査の実施概要

## 1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「雇用対策」や「女性の活躍推進」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

## 2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「雇用対策」や「女性の活躍推進」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

## 3. 調査の設計

◇調査地域	奈良県全域	◇調査対象	県内在住の満20歳以上の男女・個人
◇調査標本数	5,000人	◇調査抽出法	層化二段無作為抽出法
◇調査方法	郵送配布・郵送回収	◇調査時期	平成29年5月20日(土)～6月8日(木)

## 4. 調査票の配布・回収の状況

◇配布件数	5,000件	◇有効回答数(率)	2,626件(52.5%)
-------	--------	-----------	---------------

### ■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	158	6.0%
夫婦	20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者	236	9.0%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	213	8.1%
教育期前期	小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	435	16.6%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	190	7.2%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	173	6.6%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	501	19.1%
非該当又は無回答		944	35.9%
合計※注		2,850	-
有効回答数		2,626	100.0%

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,626件)と一致しない。

### ■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,393	53.0%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,188	45.2%
無回答		45	1.7%
合計		2,626	100.0%

### ■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,032	39.3%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	335	12.8%
非該当又は無回答		1,259	47.9%
合計		2,626	100.0%

## 地域の区分



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,260	48.0%
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	255	9.7%
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	669	25.5%
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	194	7.4%
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	166	6.3%
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	82	3.1%
合 計		2,626	100.0%

## 第2章 調査結果の分析

### 1. 県民の生活全般について

#### 1-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

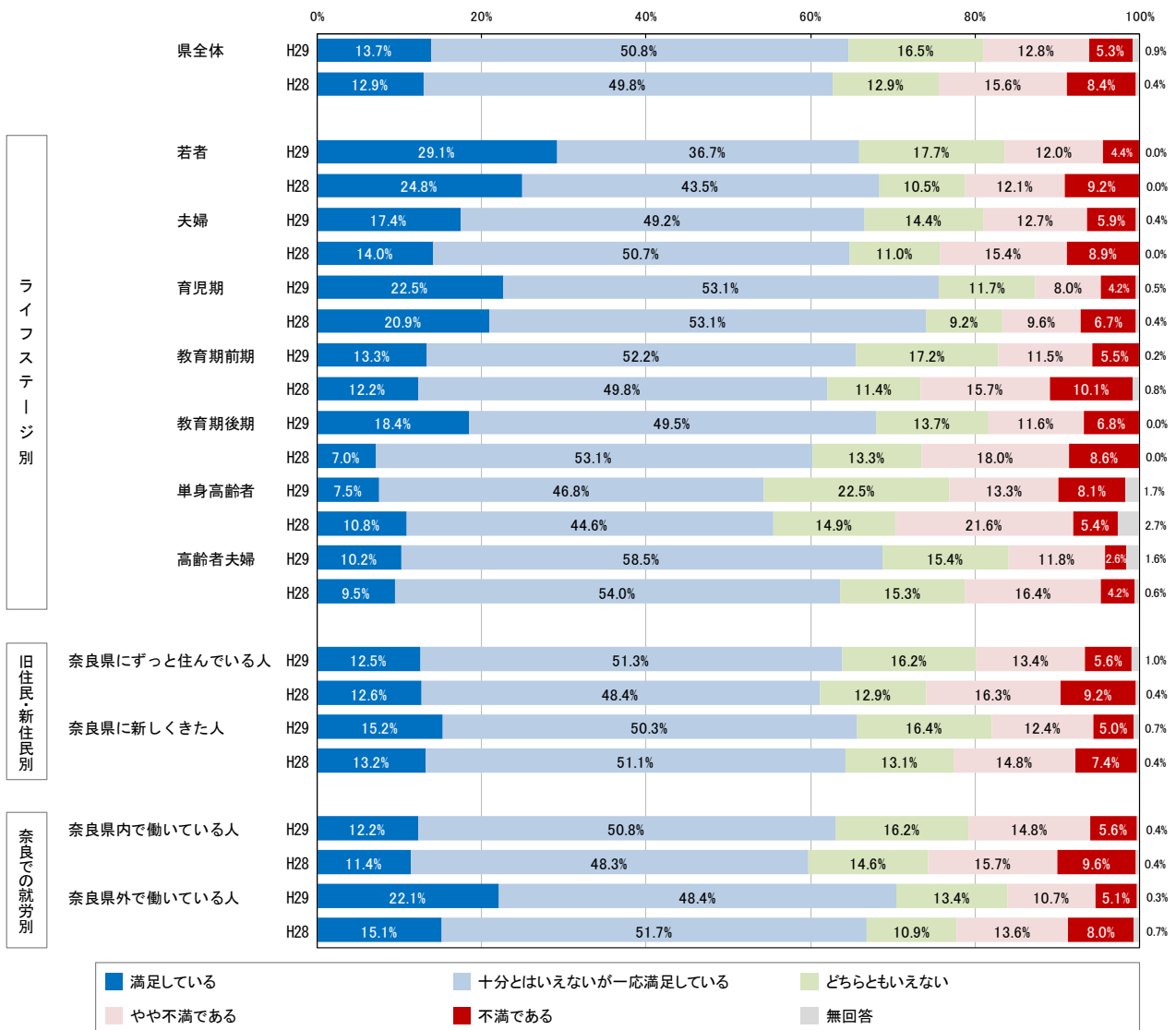
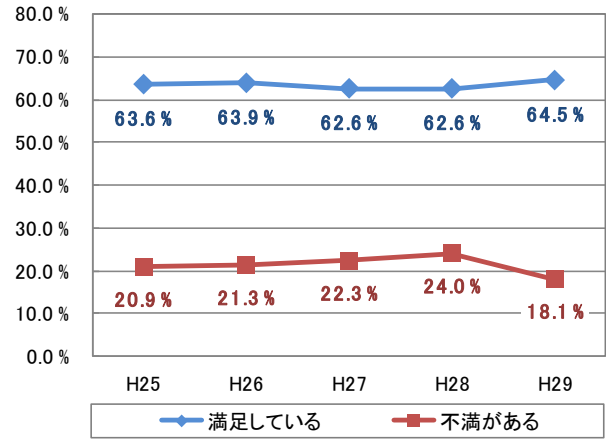
■「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は、平成28年度と比較すると、1.9ポイント増加しています。一方、「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人は5.9ポイント減少しています。

■ライフステージ別に見ると、「満足」している人が最も多いのは『育児期』（75.6%）、次いで『高齢者夫婦』（68.7%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『単身高齢者』（21.4%）となっていますが、すべてのライフステージで平成28年度から減少しています。

■旧住民・新住民別に見ると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（65.6%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（63.8%）と比べ多くなっています。

■奈良での就労別に見ると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』（70.4%）が『奈良県内で働いている人』（63.0%）と比べ多くなっています。

年度別



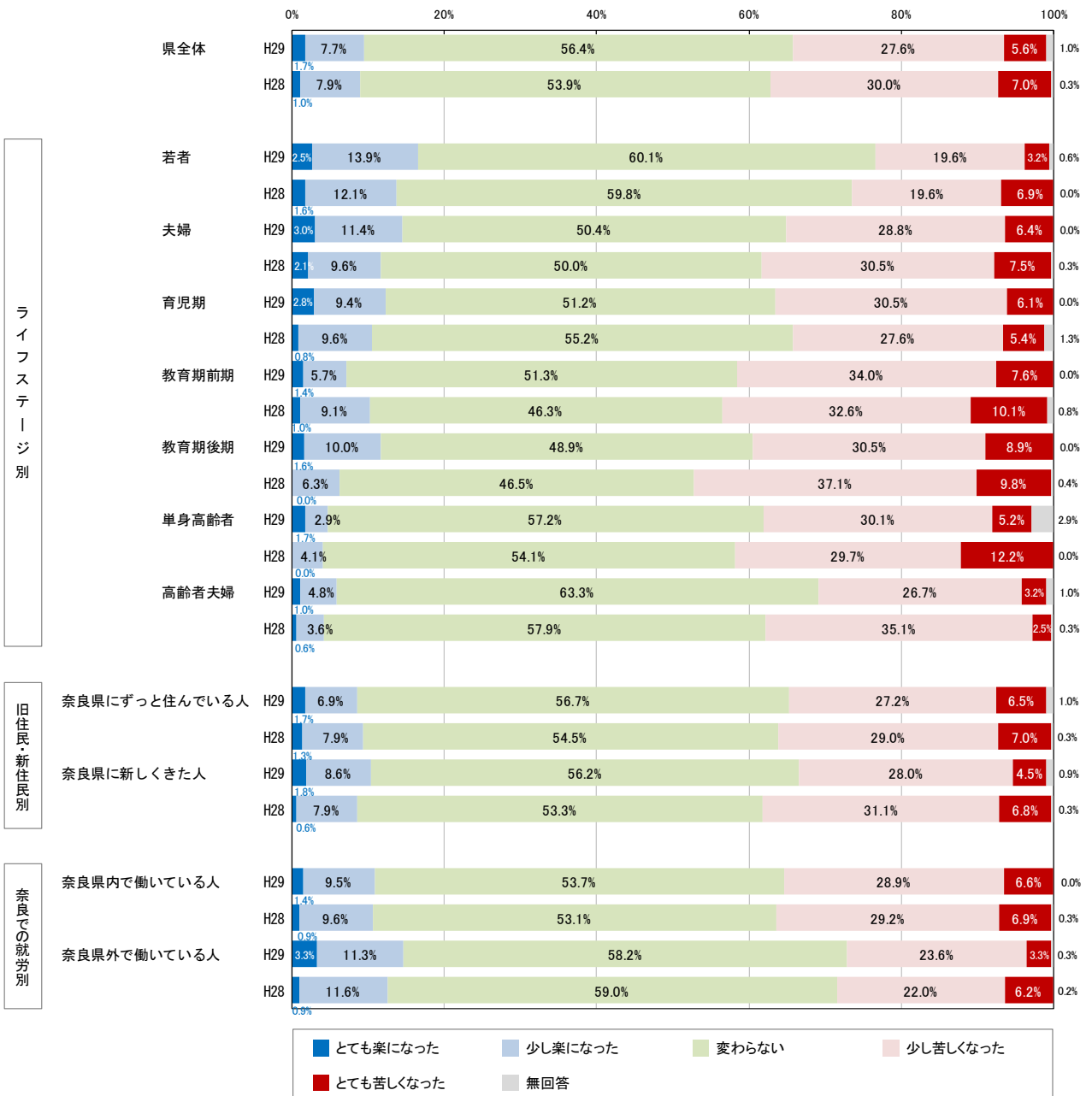
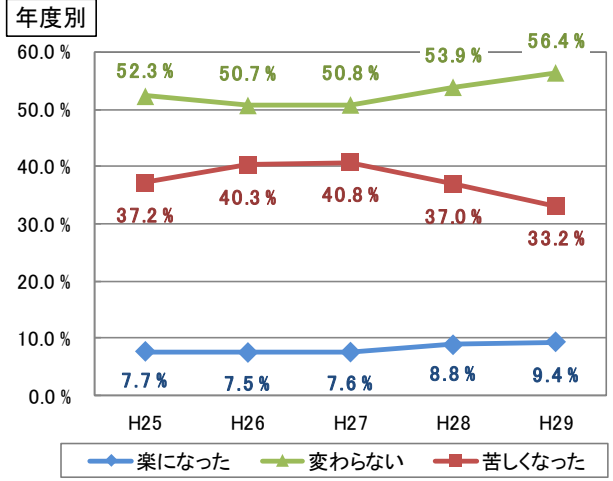
## 1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

■「変わらない」と感じている人は、平成28年度から2.5ポイント増加しています。また、「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人は、平成28年度から0.5ポイント増加しています。一方、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人は、平成27年度以降、減少傾向にあり、平成28年度から3.8ポイントの減少となっています。

■ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期前期』（41.6%）が最も多く、次いで『教育期後期』（39.5%）となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（33.7%）が『奈良県に新しくきた人』（32.5%）と比べ多くなっています。

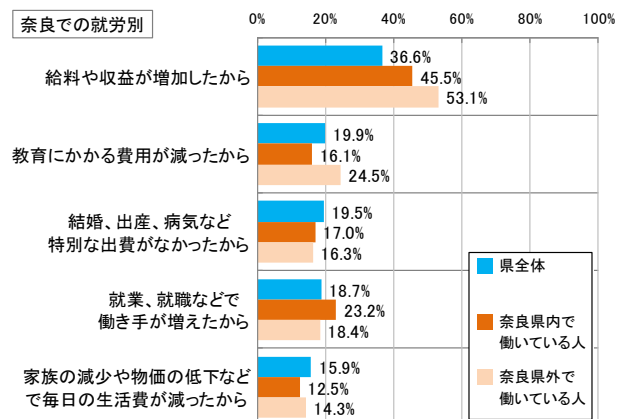
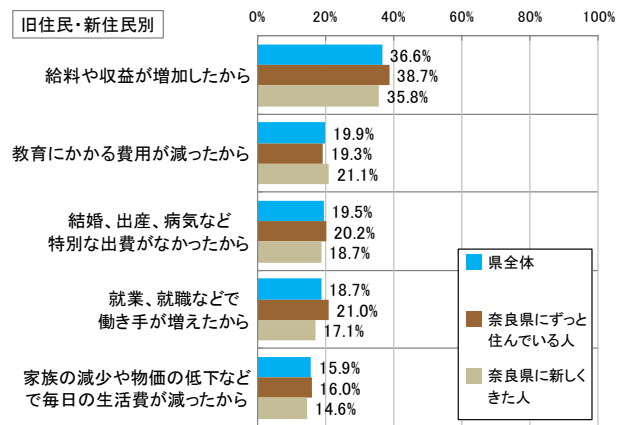
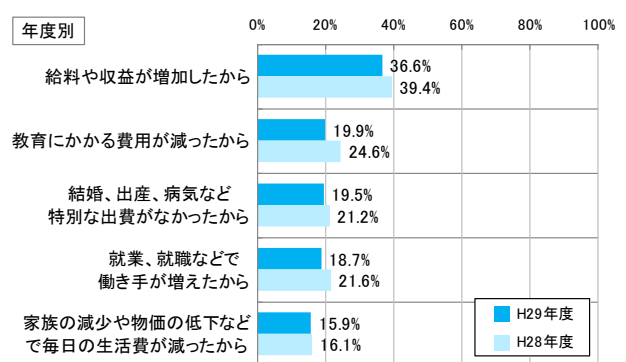
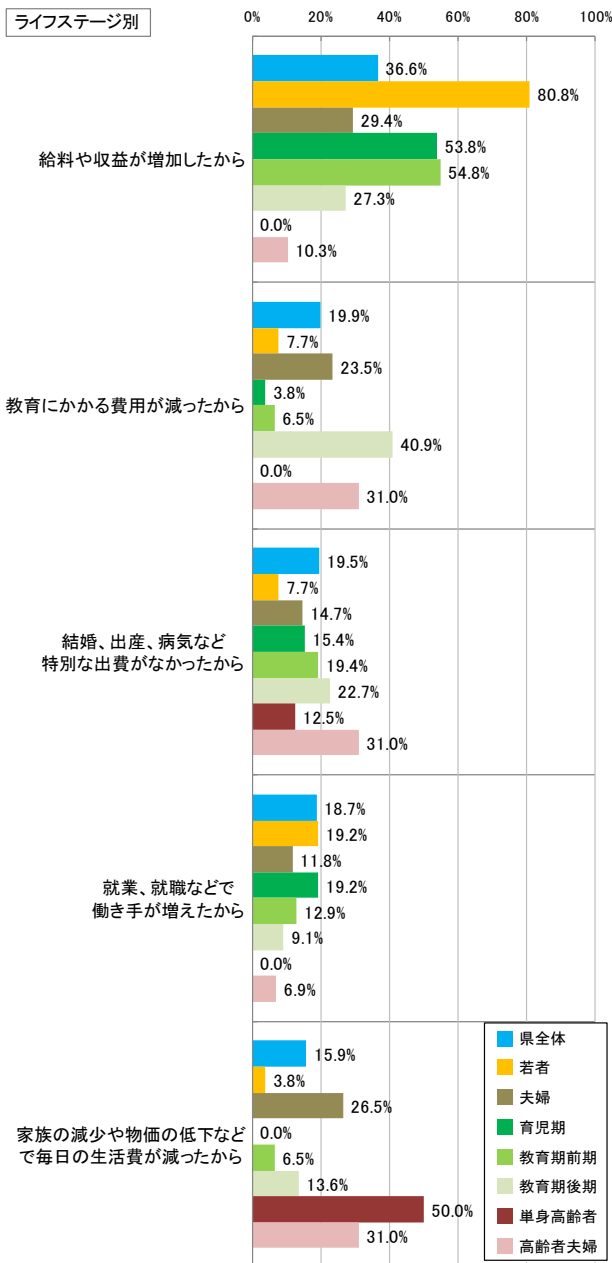
■奈良での就労別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』（35.5%）が『奈良県外で働いている人』（26.9%）と比べ多くなっています。



### 1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

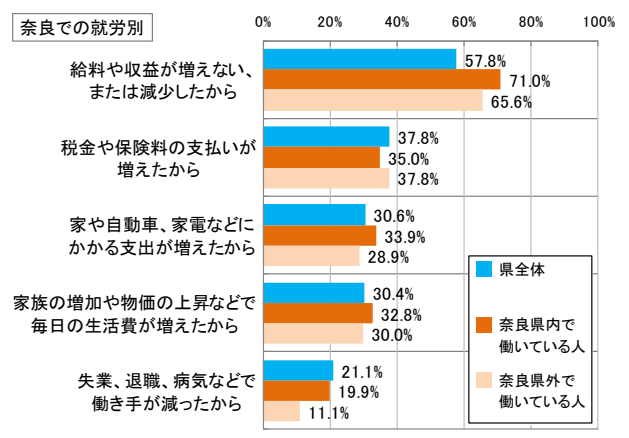
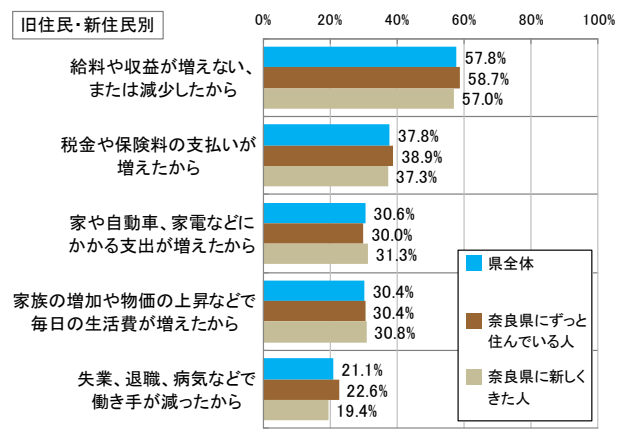
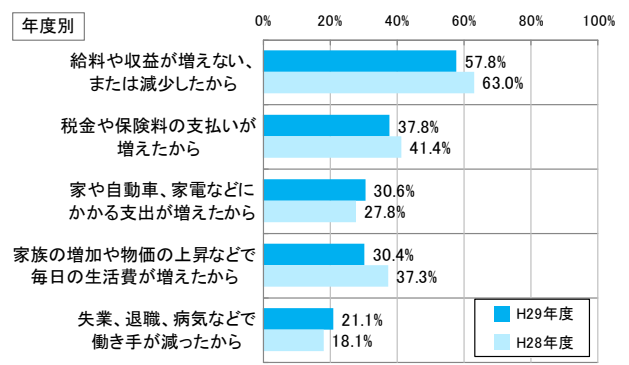
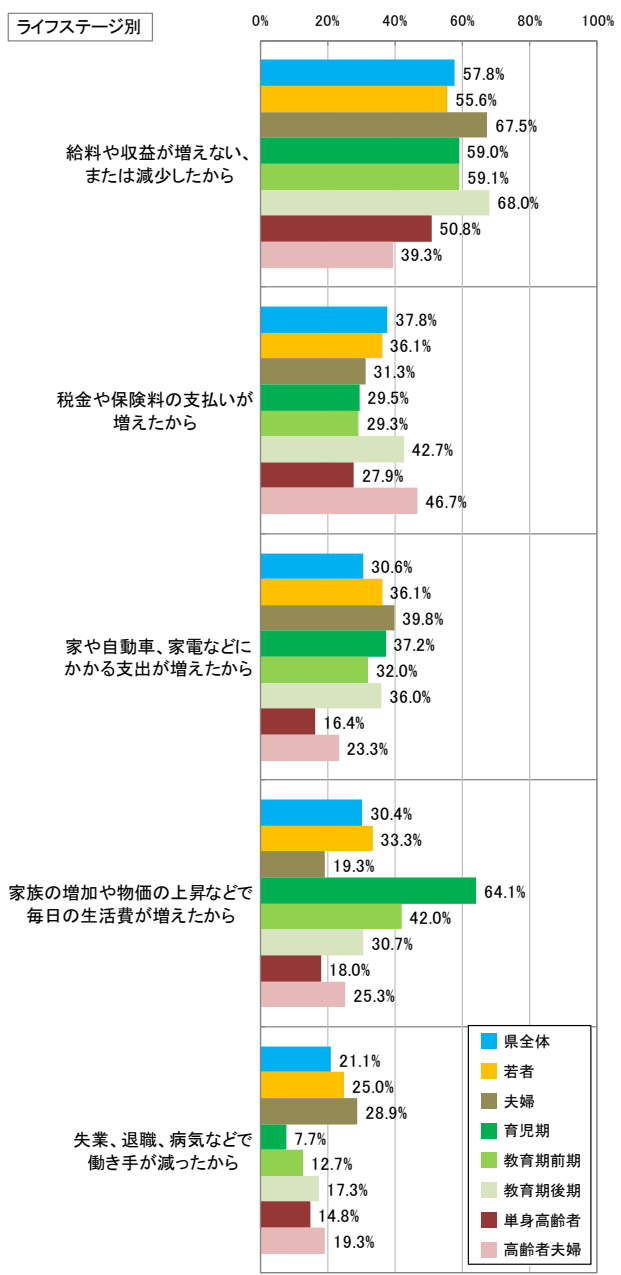
#### (1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(36.6%)が最も多く、次いで「教育にかかる費用が減ったから」(19.9%)、「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」(19.5%)、「就業、就職などで働き手が増えたから」(18.7%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(15.9%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「結婚、出産、病気など特別な出費がなかったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』と『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。



(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

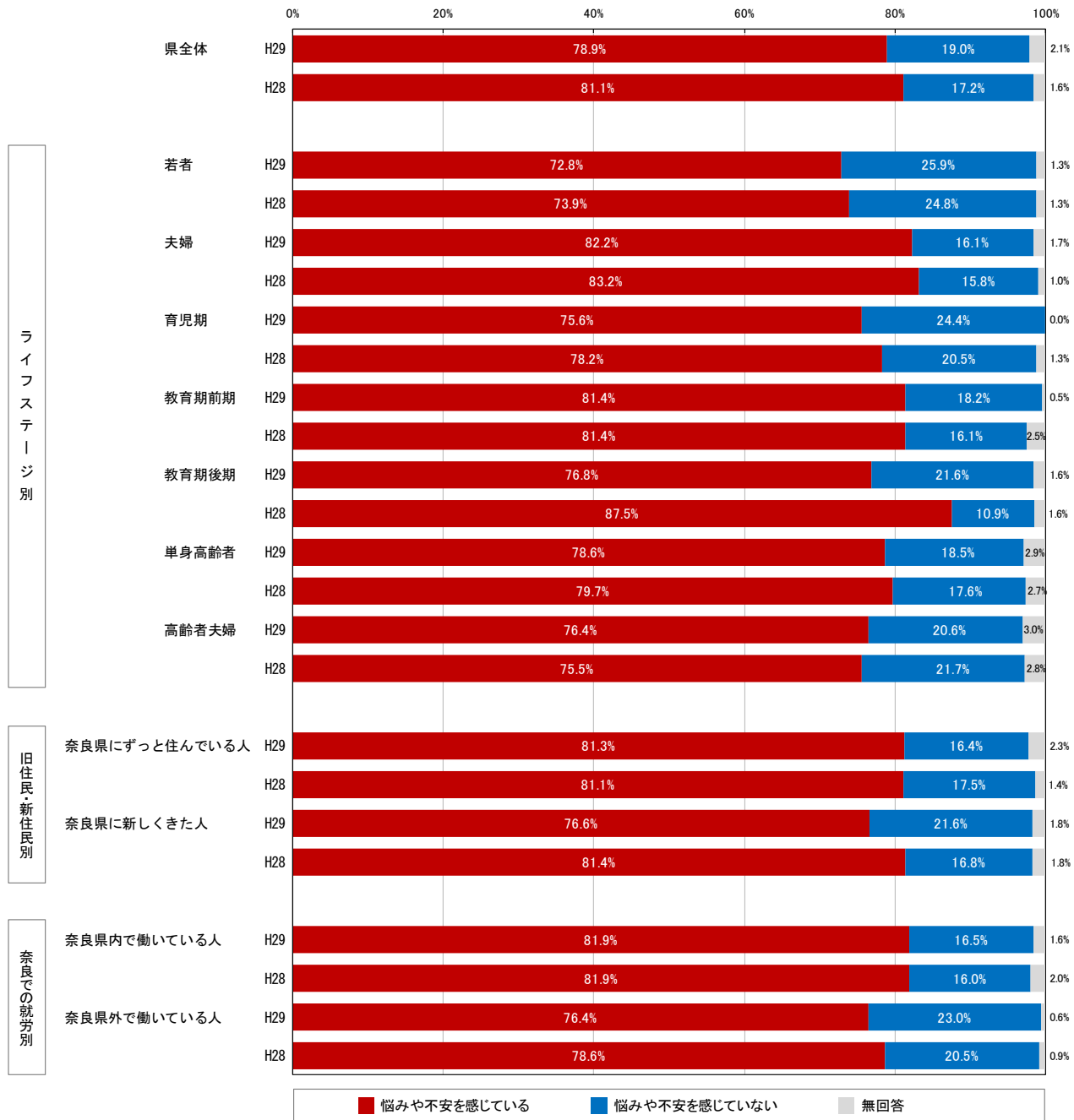
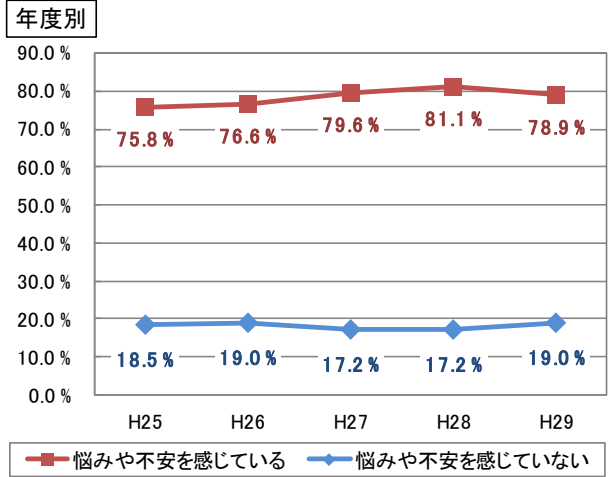
- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(57.8%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(37.8%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(30.6%)、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(30.4%)、「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」(21.1%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。





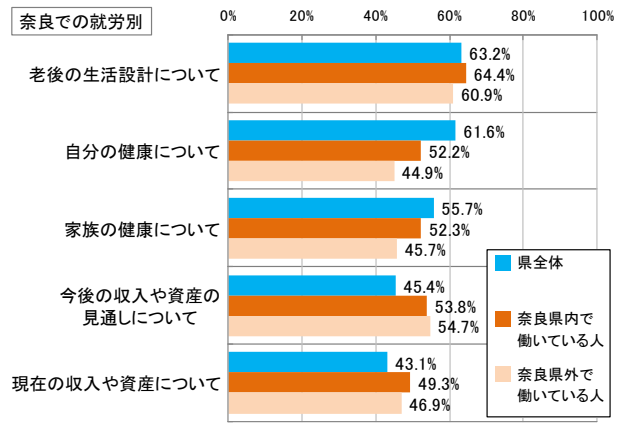
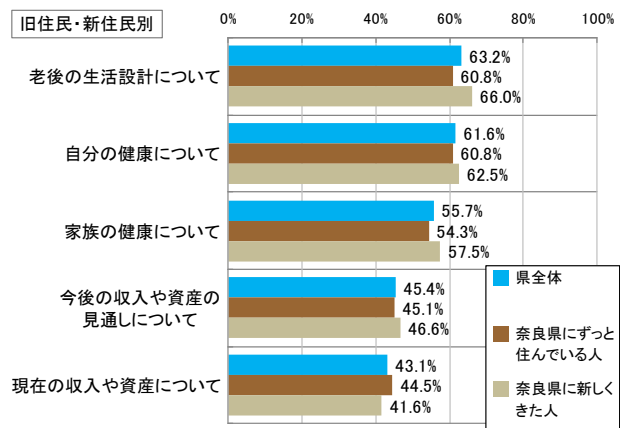
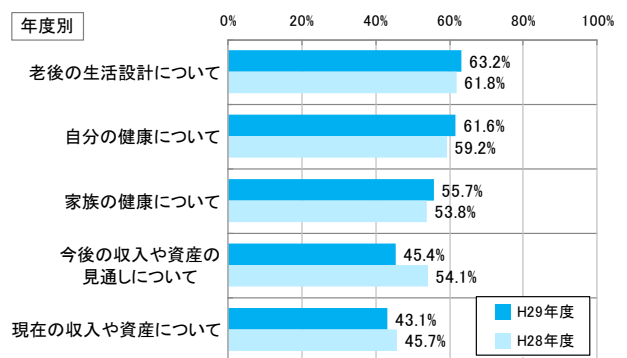
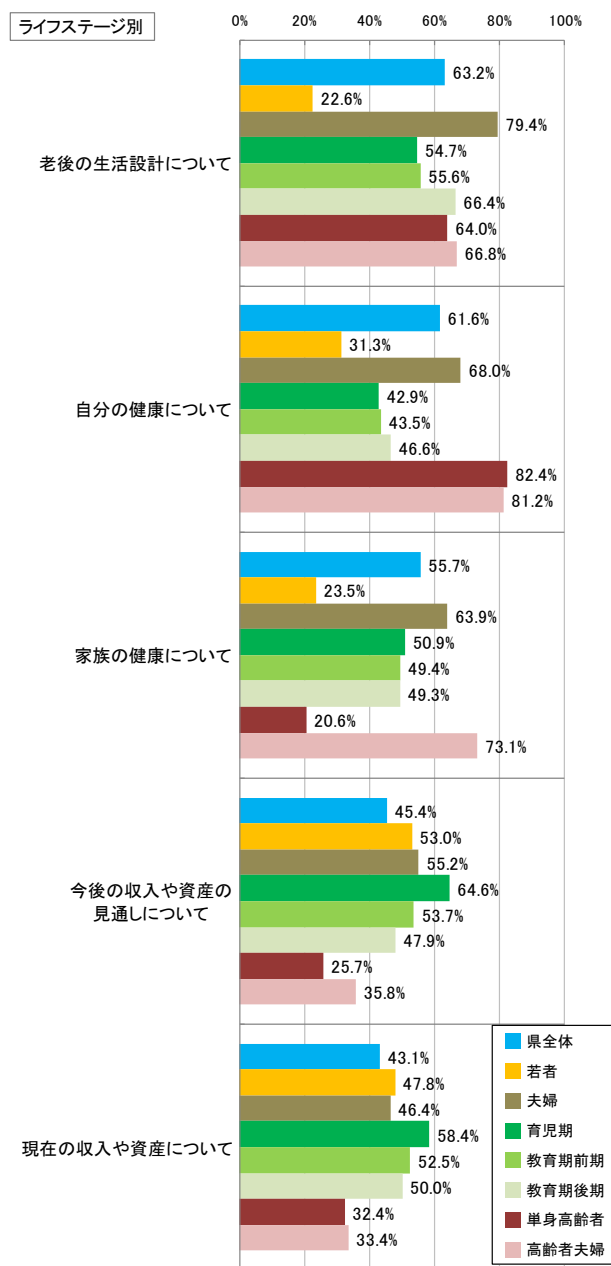
# 1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無 (問5)

- 平成 25 年度から継続して 75%以上の方が日頃の生活に対し「悩みや不安を感じている」と答えています。平成 28 年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 2.2 ポイント減少しています。一方、「悩みや不安を感じていない人」は 1.8 ポイント増加しています。
- ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『夫婦』(82.2%)と『教育期前期』(81.4%)で8割以上となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(81.3%)が『奈良県に新しくきた人』(76.6%)と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(81.9%)が『奈良県外で働いている人』(76.4%)と比べ多くなっています。



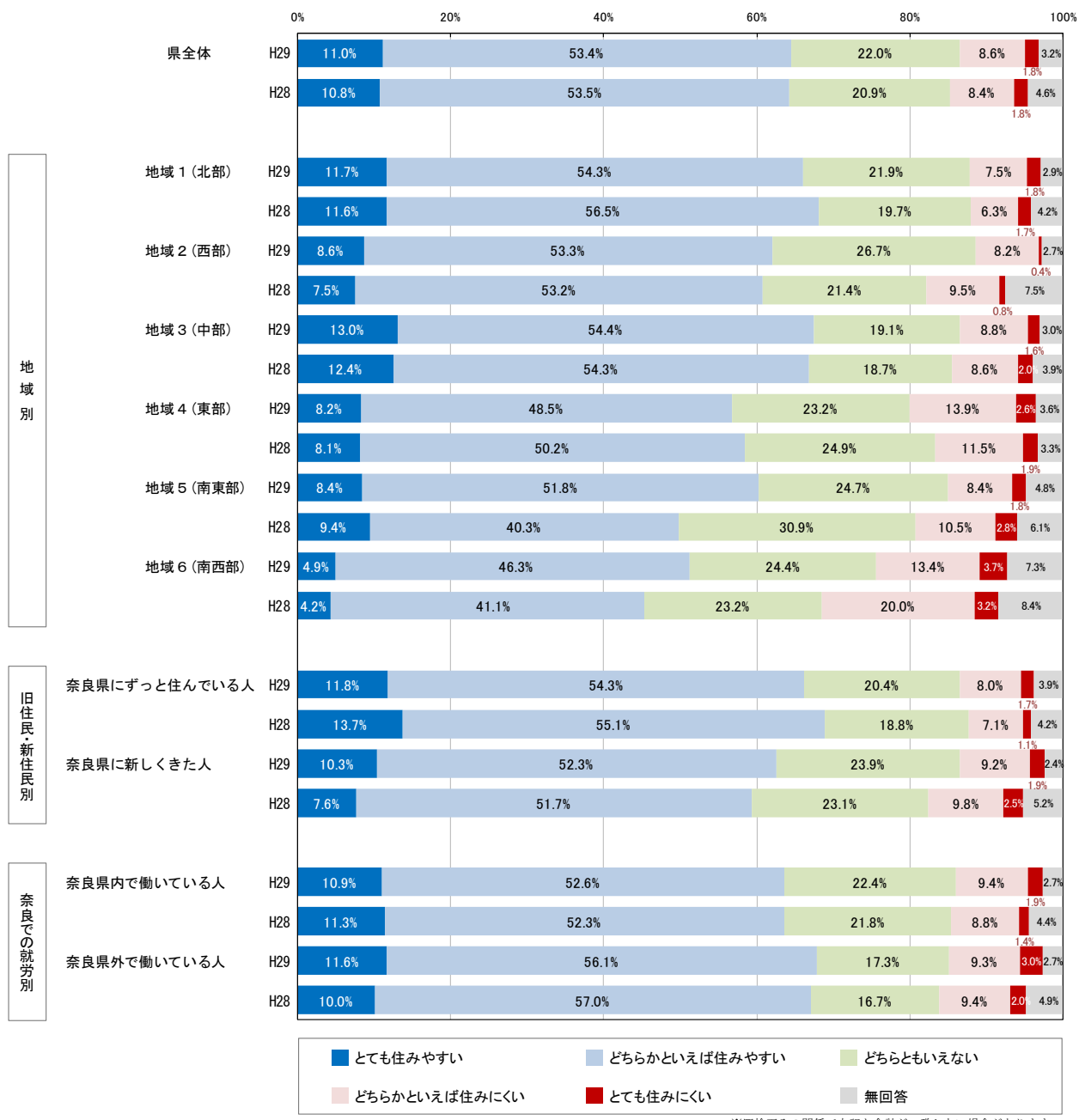
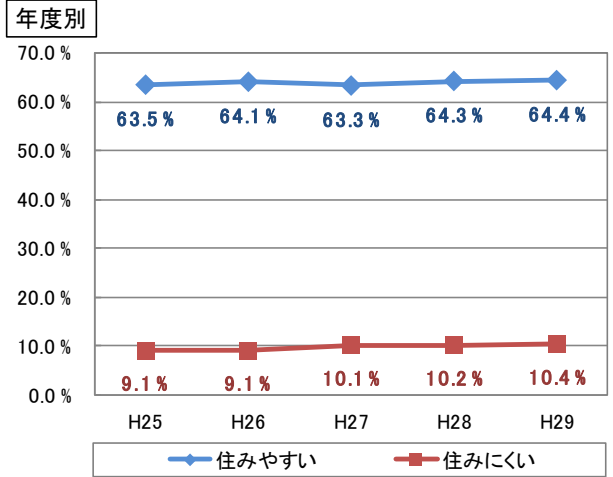
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容（問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」（63.2%）が最も多く、次いで「自分の健康について」（61.6%）、「家族の健康について」（55.7%）、「今後の収入や資産の見通しについて」（45.4%）、「現在の収入や資産について」（43.1%）が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



# 1-6 奈良県の住みやすさの評価 (問7)

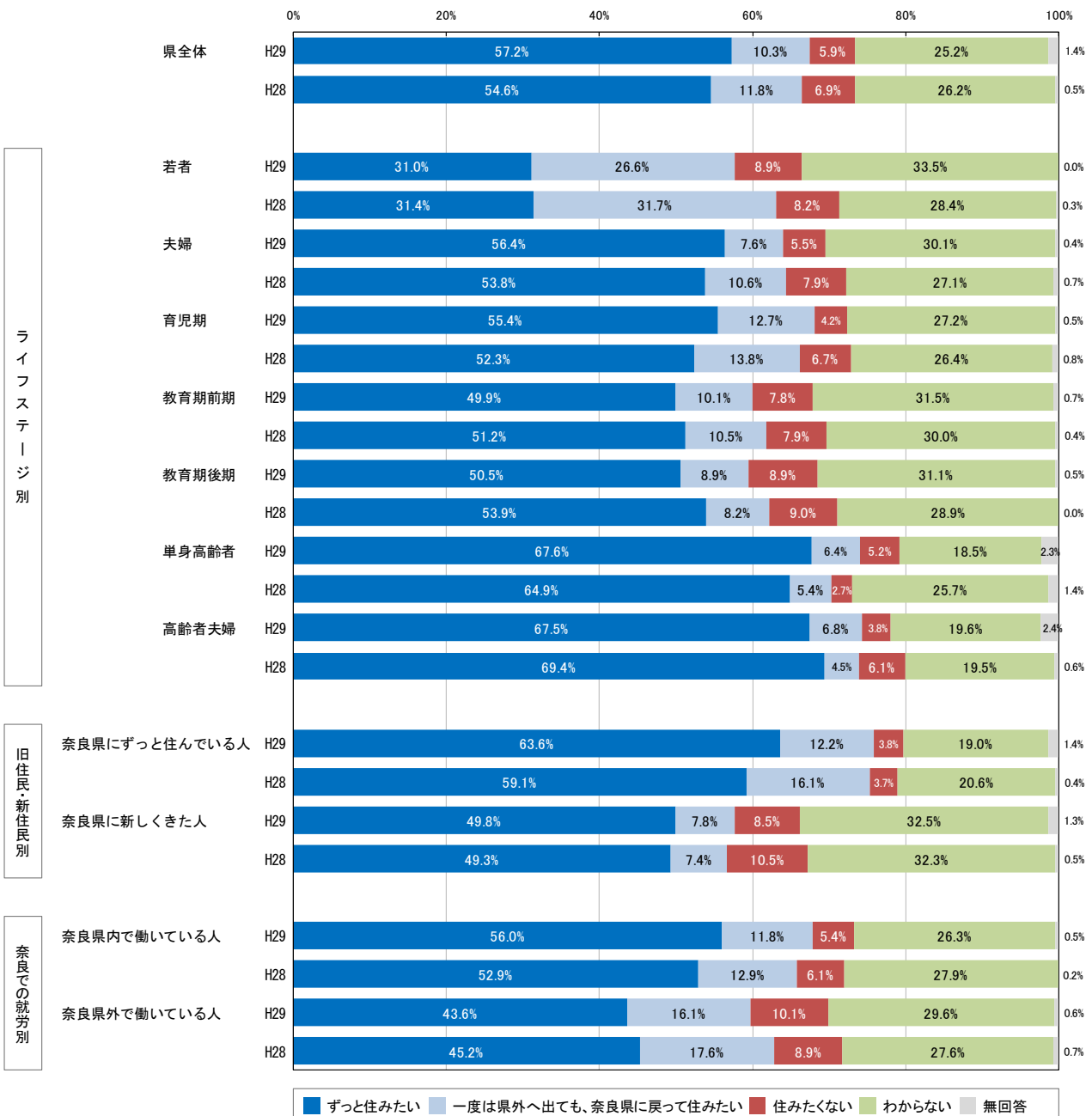
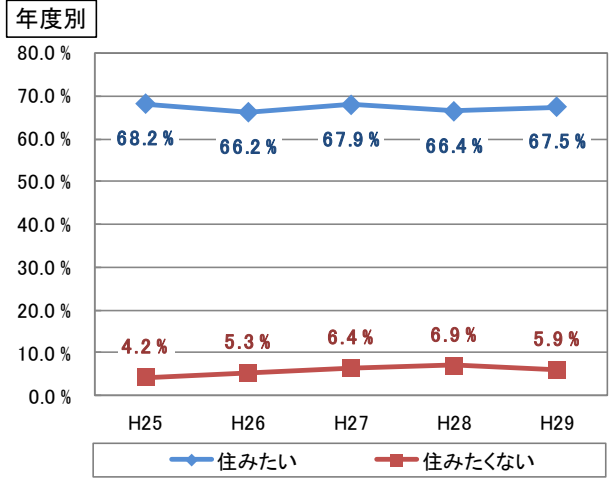
- 「住みやすい」「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」と感じている人は、平成25年度から概ね横ばい傾向にあります。平成28年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人、「住みにくい」(「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」と感じている人)ともに0.2ポイント増加しています。
- 地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域3(中部)』(67.4%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(66.0%)、『地域2(西部)』(62.0%)となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(66.1%)が『奈良県に新しくきた人』(62.5%)と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県外で働いている人』(67.8%)が『奈良県内で働いている人』(63.6%)と比べ多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

# 1-7 将来の奈良県での定住意向 (問8)

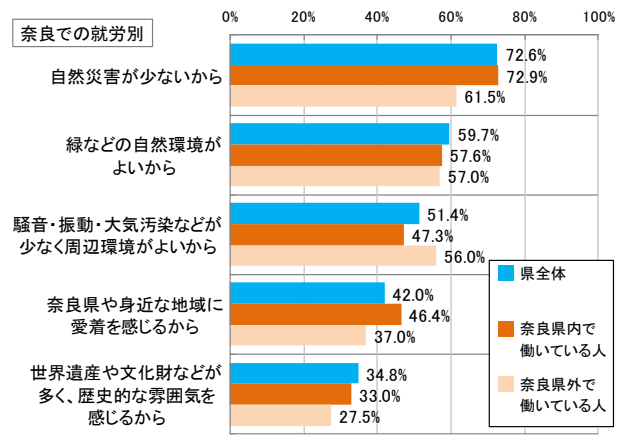
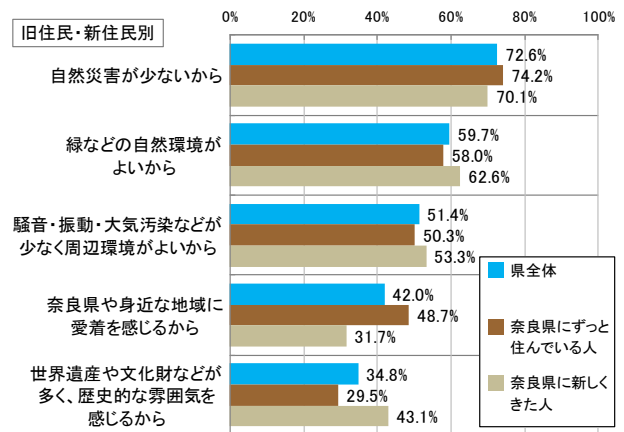
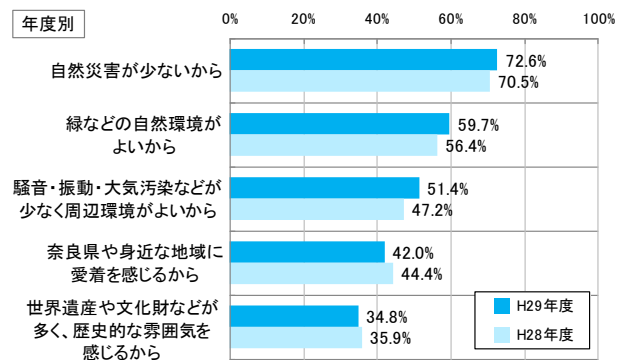
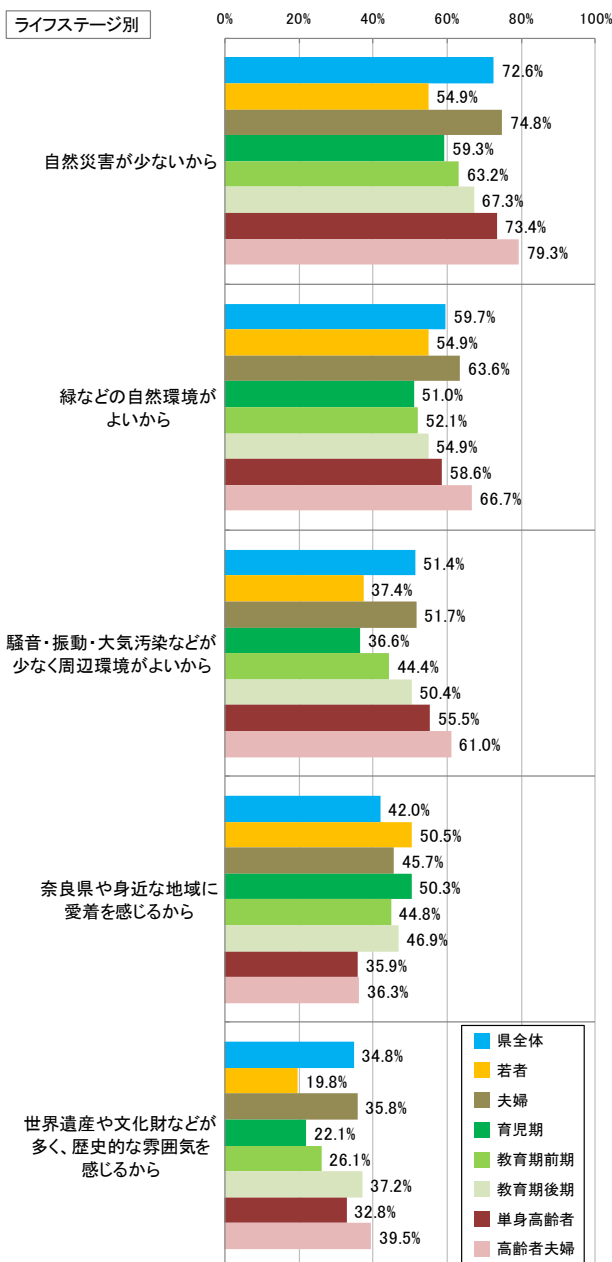
- 奈良県に「住みたい」(「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は、平成 25 年度から6割台後半で推移しています。平成 28 年度と比較すると 1.1 ポイント増加しています。
- ライフステージ別に見ると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『単身高齢者』(67.6%)、最も少ないのは『若者』(31.0%)となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(26.6%)となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(75.8%)が『奈良県に新しくきた人』(57.7%)と比べ多くなっています。
- 奈良での就労別に見ると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(67.8%)が『奈良県外で働いている人』(59.7%)と比べ多くなっています。



## 1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

### (1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

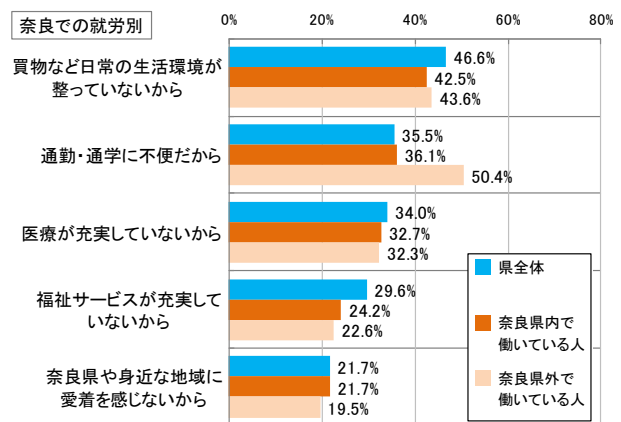
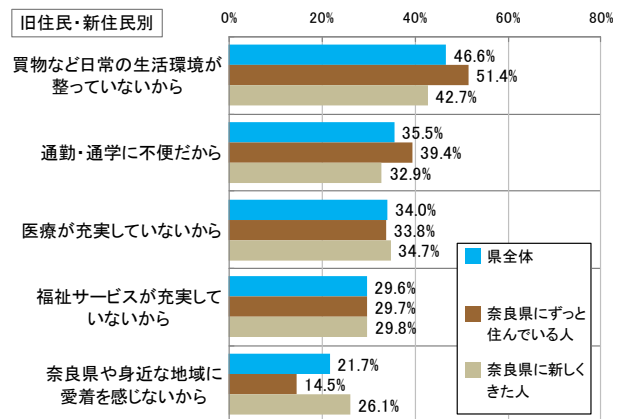
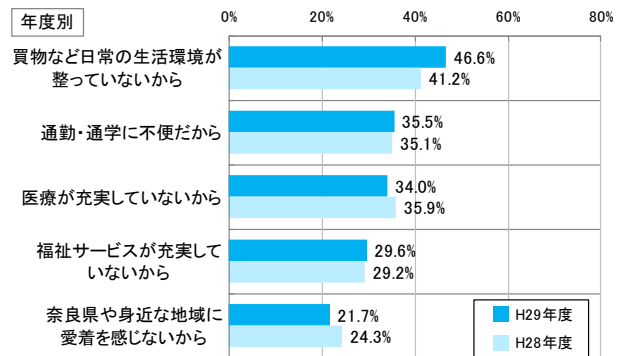
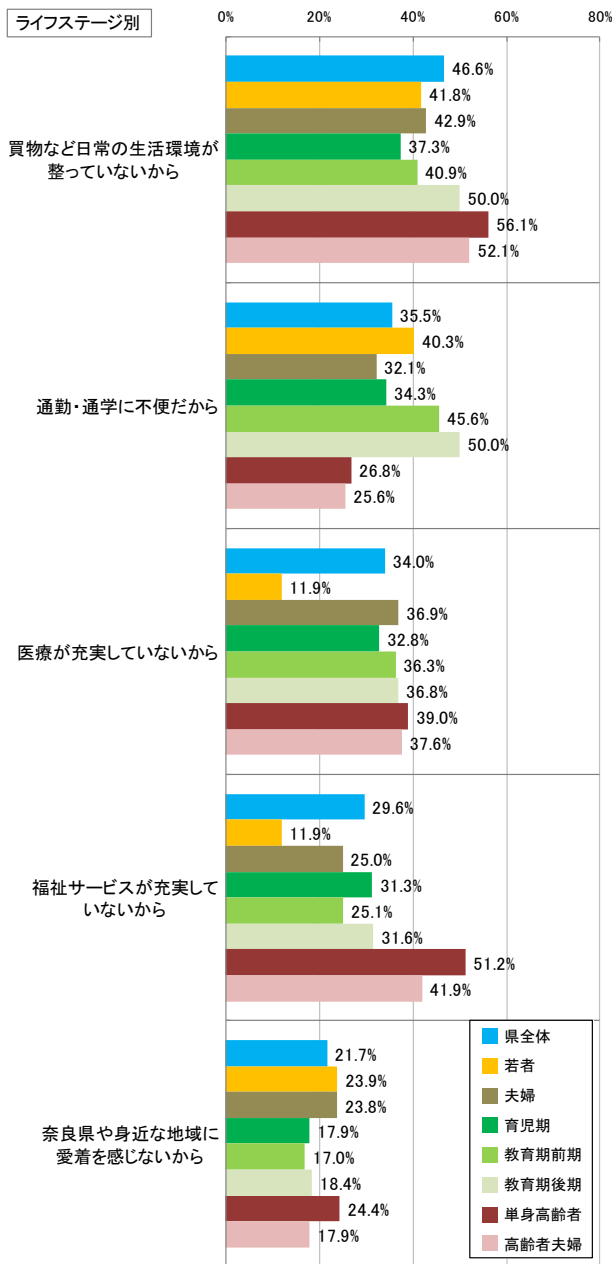
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(72.6%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(59.7%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(51.4%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(42.0%)、「世界遺産や文化財などが多く、歴史的な雰囲気をを感じるから」(34.8%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」、「世界遺産や文化財などが多く、歴史的な雰囲気をを感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。
- 「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



## (2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問 10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常の生活環境が整っていないから」(46.6%)が最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(35.5%)、「医療が充実していないから」(34.0%)、「福祉サービスが充実していないから」(29.6%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」(21.7%)が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っていないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」、「福祉サービスが充実していないから」、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



## 2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問11 5段階ポイント評価)

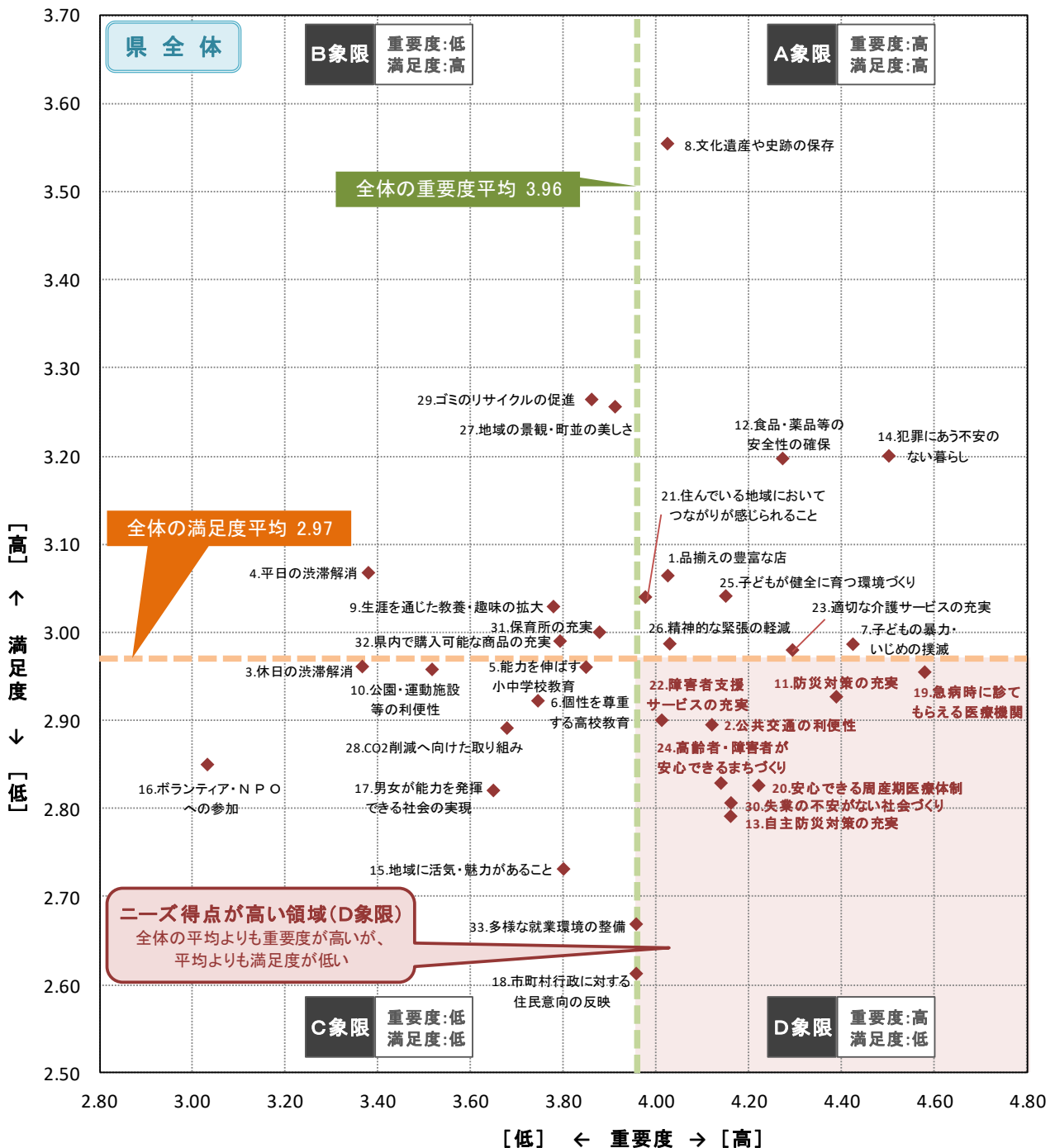
### (1) 県全体

■身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点＝重要度(加重平均)×6－満足度(加重平均)」により算出。)

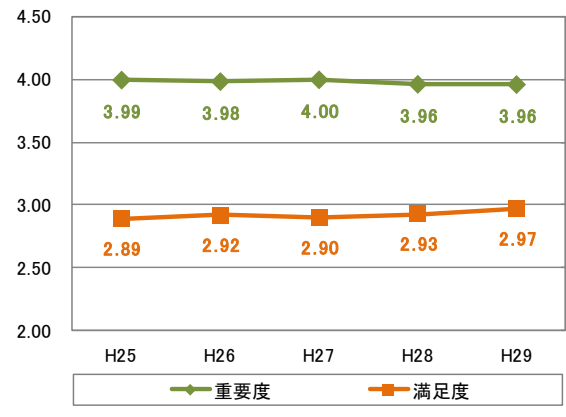
■県全体では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 25 年度からほぼ横ばい傾向となっています。また、満足度の平均値は平成 27 年度から上昇傾向にあります。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5 年間の比較）】

項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					重要度と満足度の関係				
		H29	H28	H27	H26	H25	H29	H28	H27	H26	H25	H29	H28	H27	H26	H25	H29	H28	H27	H26	H25
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	4.03	3.90	3.95	3.92	3.90	3.06	3.09	2.94	3.07	3.09	11.82	11.33	12.09	11.47	11.33	A	B	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.12	4.11	4.10	4.07	4.08	2.89	3.01	2.81	3.02	3.01	12.80	12.28	13.10	12.12	12.20	D	A	D	A	A
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.37	3.42	3.39	3.42	3.40	2.96	2.98	2.97	2.98	2.93	10.23	10.32	10.26	10.33	10.44	C	B	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.38	3.38	3.38	3.41	3.39	3.07	3.08	3.05	3.09	3.06	9.91	9.88	9.95	9.92	9.95	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.85	3.84	3.89	3.95	3.98	2.96	2.96	2.91	2.93	2.89	11.70	11.67	12.01	12.10	12.39	C	B	B	B	C
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.75	3.76	3.79	3.82	3.83	2.92	2.91	2.88	2.93	2.89	11.53	11.61	11.81	11.75	11.94	C	C	C	B	C
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.43	4.42	4.46	4.43	4.46	2.99	2.94	2.90	2.95	2.90	13.34	13.55	13.84	13.51	13.83	A	A	D	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.03	3.96	4.00	3.96	3.97	3.55	3.58	3.52	3.53	3.53	9.84	9.59	9.92	9.78	9.81	A	A	B	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.78	3.77	3.83	3.81	3.82	3.03	3.02	2.99	3.03	2.99	11.23	11.23	11.51	11.34	11.47	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.52	3.53	3.53	3.55	3.55	2.96	2.92	2.86	2.90	2.93	10.70	10.88	11.09	10.98	10.91	C	C	C	C	B
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.39	4.42	4.42	4.39	4.39	2.93	2.83	2.83	2.77	2.72	13.49	14.02	14.01	14.18	14.39	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.27	4.29	4.32	4.27	4.31	3.20	3.18	3.13	3.11	3.09	11.98	12.12	12.42	12.37	12.57	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること	4.16	4.19	4.16	4.16	4.19	2.79	2.72	2.76	2.71	2.65	13.35	13.76	13.48	13.69	14.05	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.50	4.50	4.53	4.50	4.53	3.20	3.14	3.09	3.13	3.08	12.61	12.90	13.19	12.91	13.25	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.80	3.79	3.84	3.84	3.82	2.73	2.69	2.62	2.70	2.68	12.42	12.56	12.98	12.67	12.69	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.03	3.03	3.06	3.06	3.08	2.85	2.84	2.82	2.85	2.83	9.55	9.58	9.71	9.64	9.78	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.65	3.67	3.72	3.70	3.73	2.82	2.78	2.75	2.79	2.76	11.60	11.82	12.09	11.87	12.10	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	3.96	4.00	4.03	4.00	4.03	2.61	2.53	2.53	2.57	2.53	13.41	13.88	13.96	13.73	13.98	C	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.58	4.57	4.62	4.57	4.63	2.95	2.84	2.84	2.80	2.73	13.95	14.43	14.61	14.61	15.15	D	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.22	4.24	4.31	4.29	4.32	2.83	2.78	2.70	2.72	2.65	13.40	13.66	14.22	14.09	14.47	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	3.98	3.92	-	-	-	3.04	2.98	-	-	-	11.77	11.87	-	-	-	A	B	-	-	-
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.01	3.99	4.13	4.10	4.14	2.90	2.88	2.82	2.84	2.80	12.44	12.48	13.14	12.96	13.26	D	D	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.29	4.26	4.40	4.34	4.37	2.98	2.92	2.87	2.89	2.89	12.97	13.11	13.75	13.51	13.60	A	D	D	D	D
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.14	4.12	4.21	4.18	4.18	2.83	2.80	2.74	2.77	2.73	13.13	13.20	13.72	13.50	13.64	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.15	4.15	4.22	4.19	4.19	3.04	2.98	2.95	2.96	2.94	12.28	12.54	12.87	12.75	12.82	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.03	4.06	4.03	4.01	3.98	2.99	2.92	2.94	2.96	2.95	12.14	12.50	12.33	12.19	12.16	A	D	A	A	B
27	自分の住む地域の景観や町並み美しいこと	3.91	3.90	3.92	3.92	3.92	3.26	3.19	3.16	3.17	3.17	10.74	10.97	11.14	11.09	11.11	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.68	3.67	3.75	3.74	3.76	2.89	2.86	2.88	2.88	2.85	11.44	11.52	11.70	11.69	11.86	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルの仕組みが整っていること	3.86	3.84	3.95	3.90	3.92	3.26	3.15	3.24	3.20	3.19	10.56	10.96	10.88	10.90	11.03	B	B	B	B	B
30	失業の不安がなくなること	4.16	4.22	4.26	4.24	4.28	2.81	2.73	2.70	2.68	2.61	13.29	13.82	14.07	14.07	14.52	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.88	3.93	3.94	3.91	3.94	3.00	2.90	2.91	2.89	2.88	11.64	12.18	12.16	12.17	12.27	B	C	B	C	C
32	県内で買いたいものが販売されていること	3.79	3.81	3.76	3.77	3.75	2.99	2.94	2.98	2.98	2.99	11.42	11.67	11.37	11.40	11.28	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	3.96	4.03	4.03	4.03	4.00	2.67	2.59	2.59	2.59	2.54	13.18	13.72	13.74	13.76	13.81	C	D	D	D	D

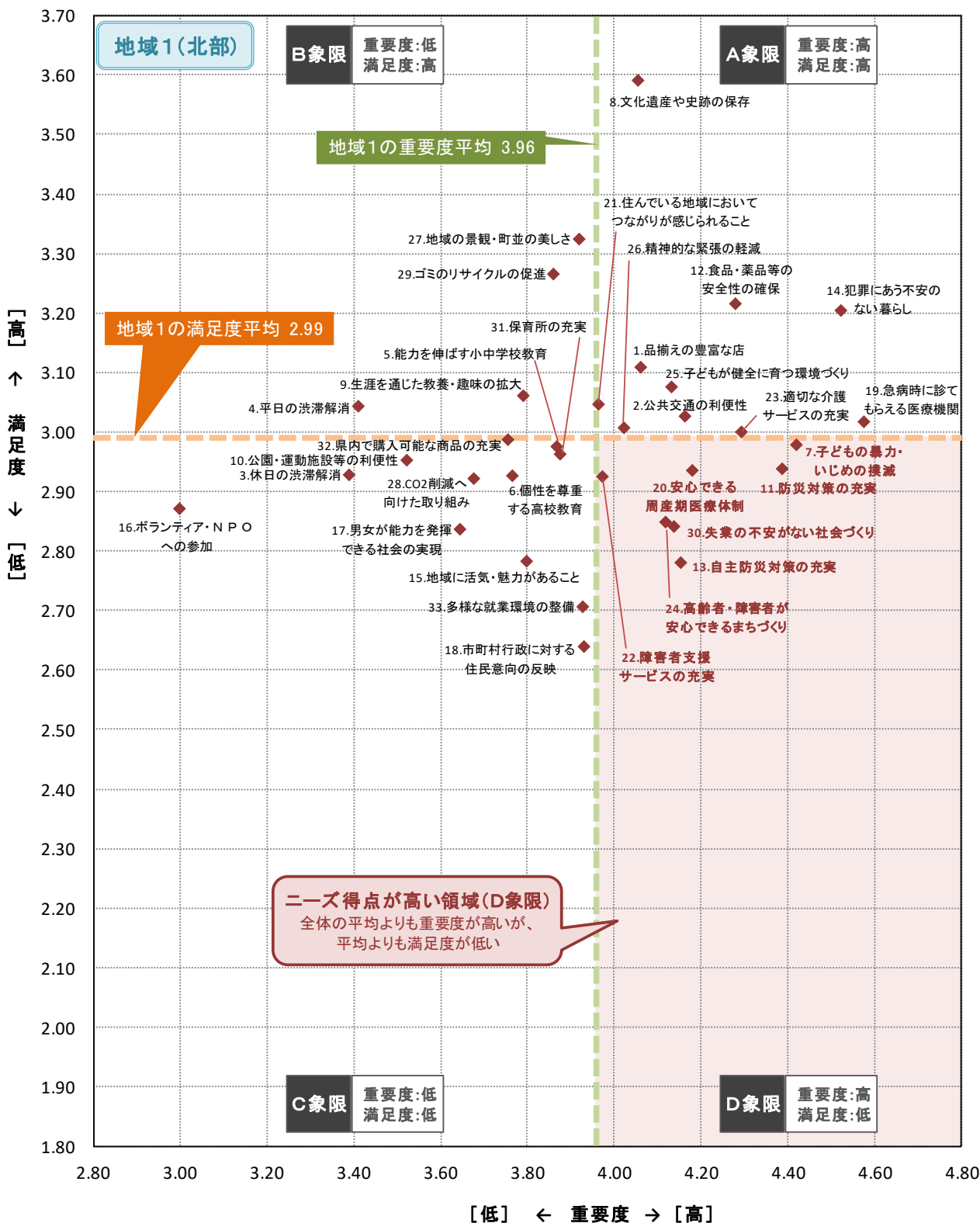
(注) 「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～Dの象限に対応している。  
 網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの（C象限・D象限）であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの（D象限）、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目（ニーズ得点が高い項目）である。  
 なお、「-」はその年度以前において未調査のため、数値がないことを示している。



## (2) 地域別

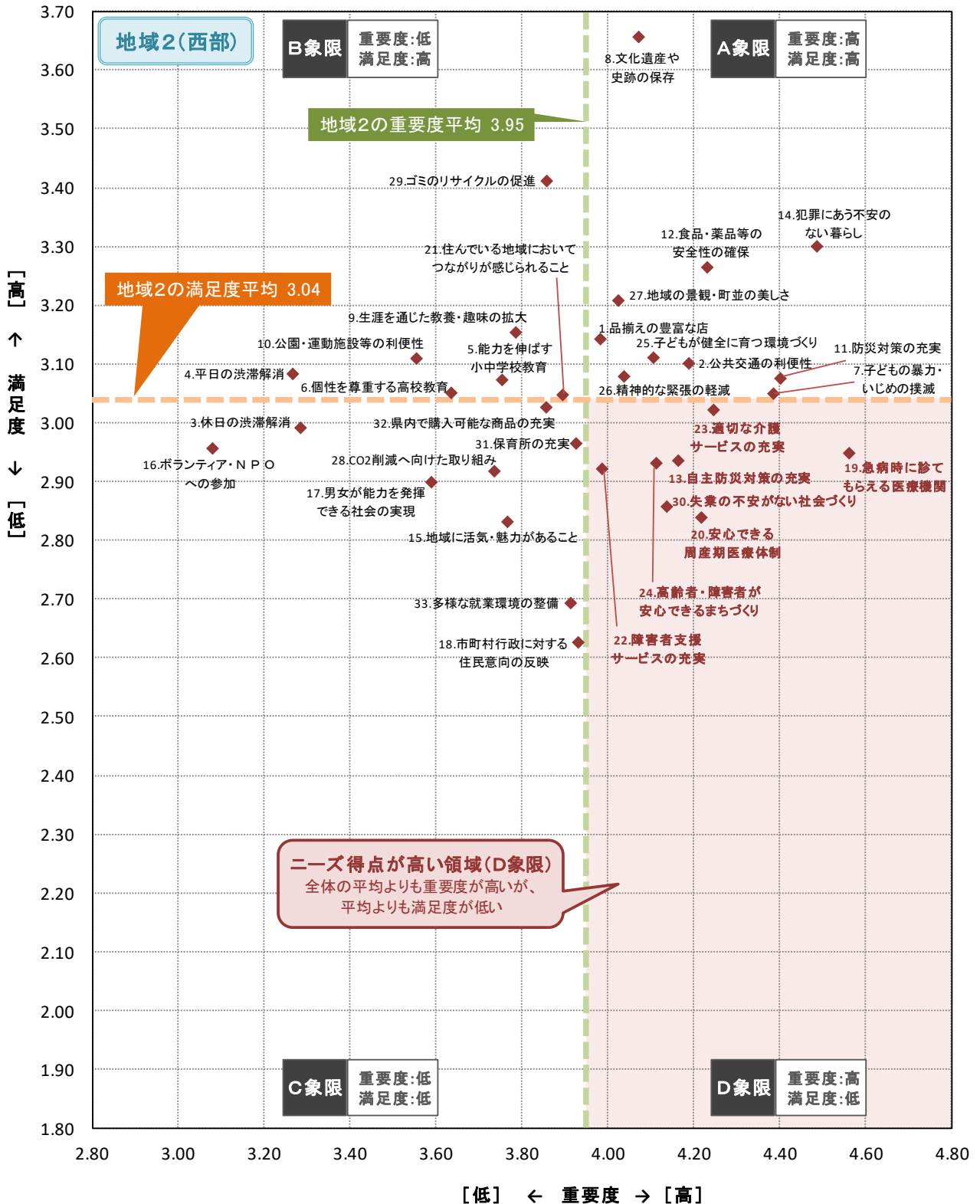
### ①地域1（北部）

- 『地域1（北部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」、「13. 自主防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「27. 地域の景観・町並の美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



## ②地域2（西部）

- 『地域2（西部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

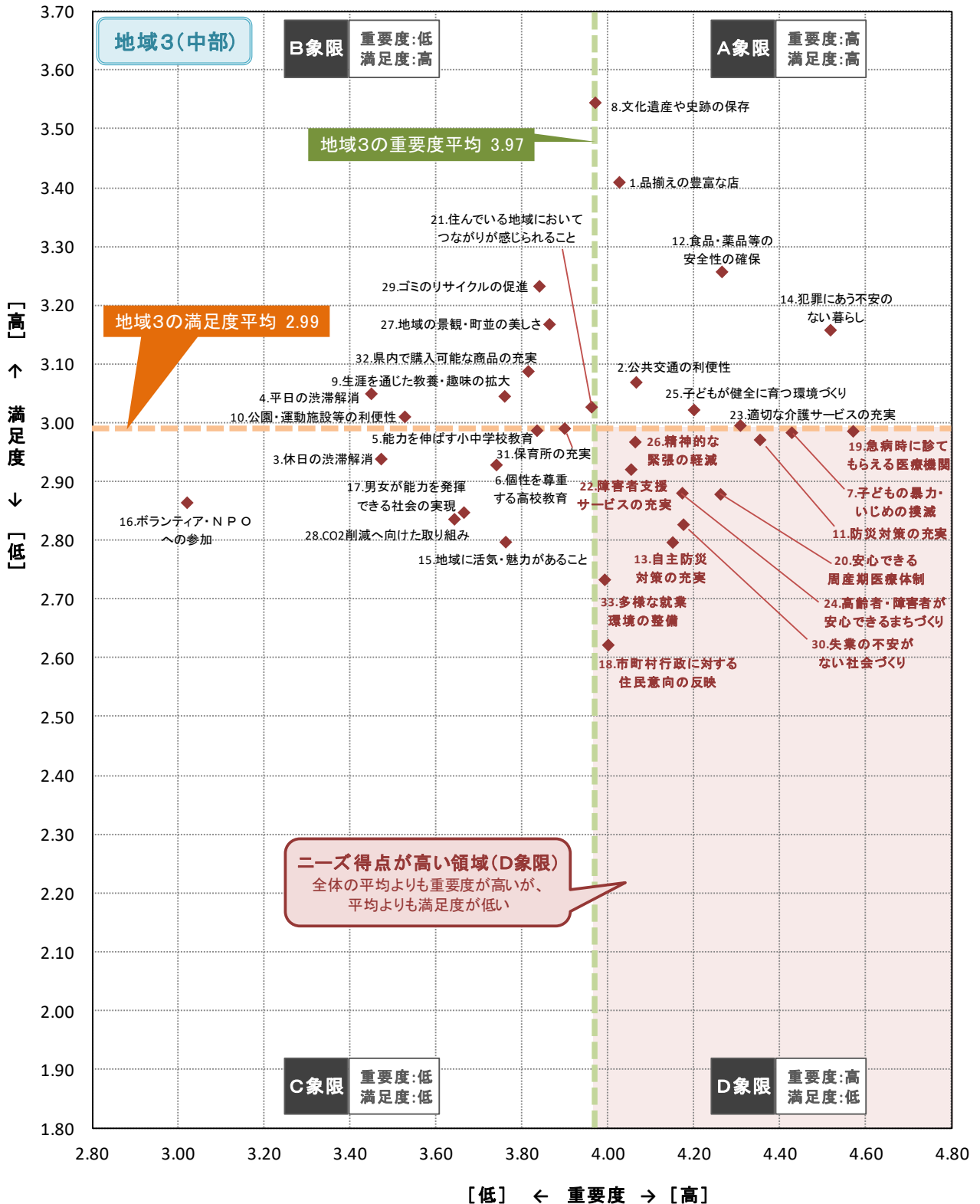


### ③地域3（中部）

■『地域3(中部)』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」などでニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

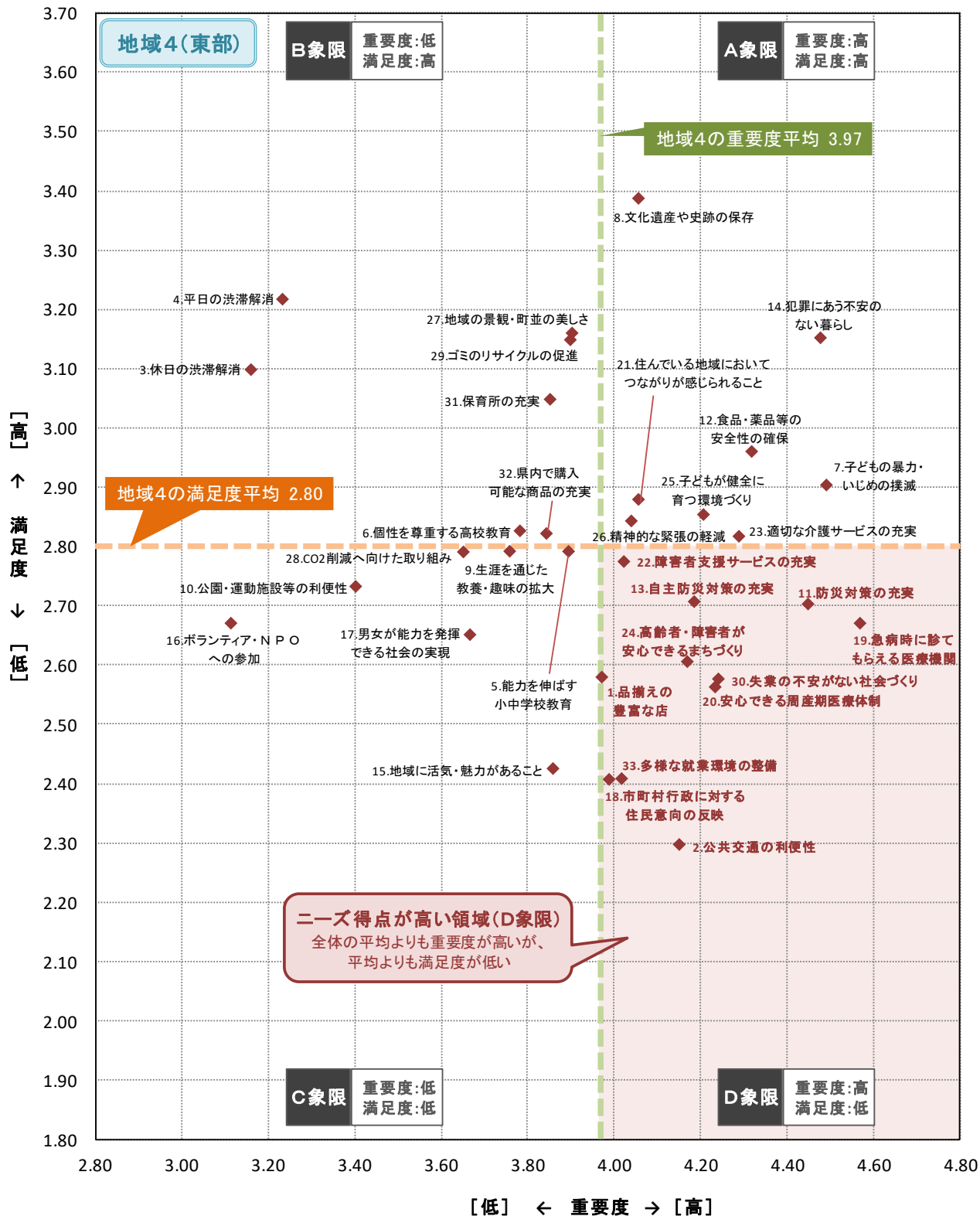


#### ④地域4（東部）

■『地域4（東部）』では、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

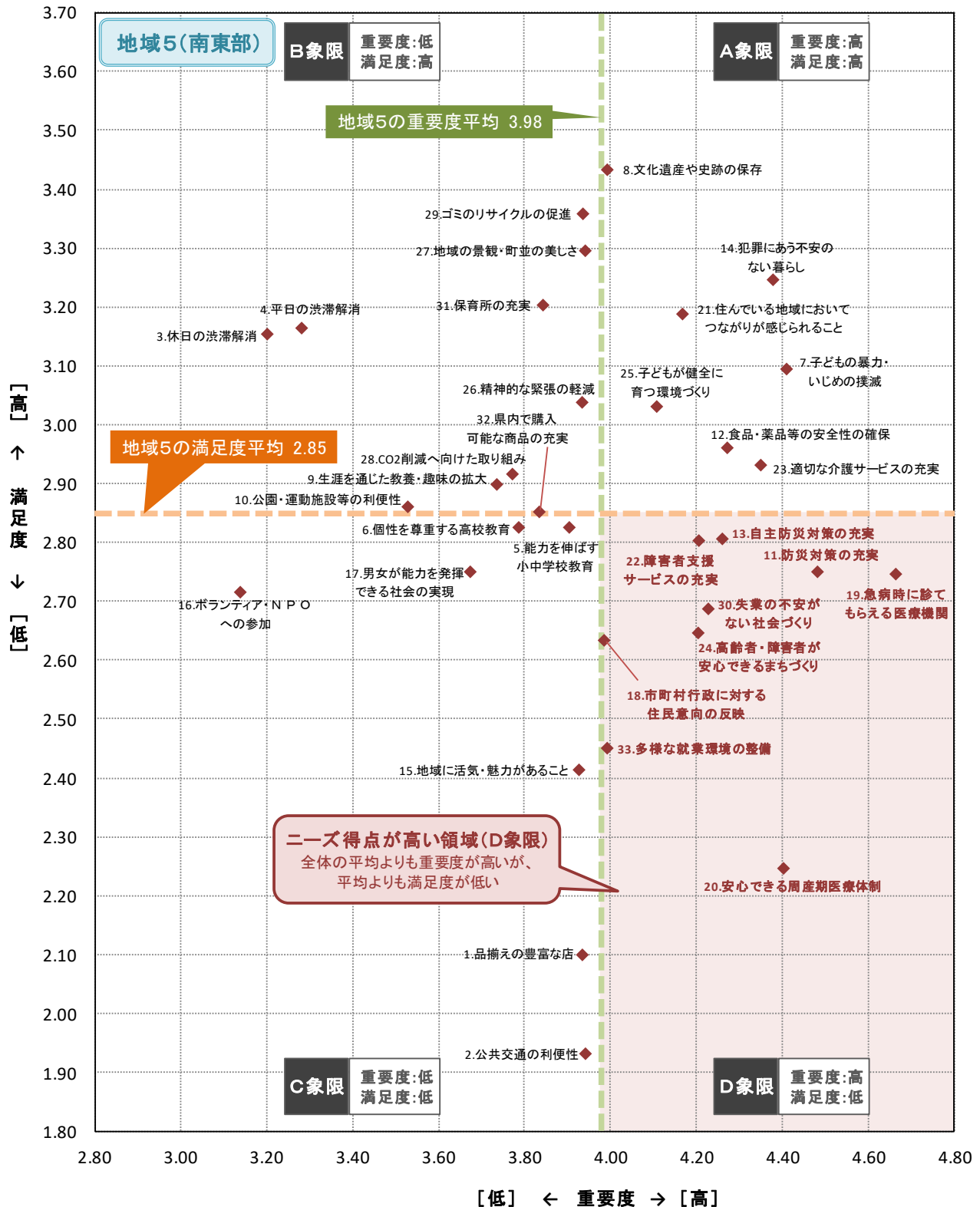
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」となっています。



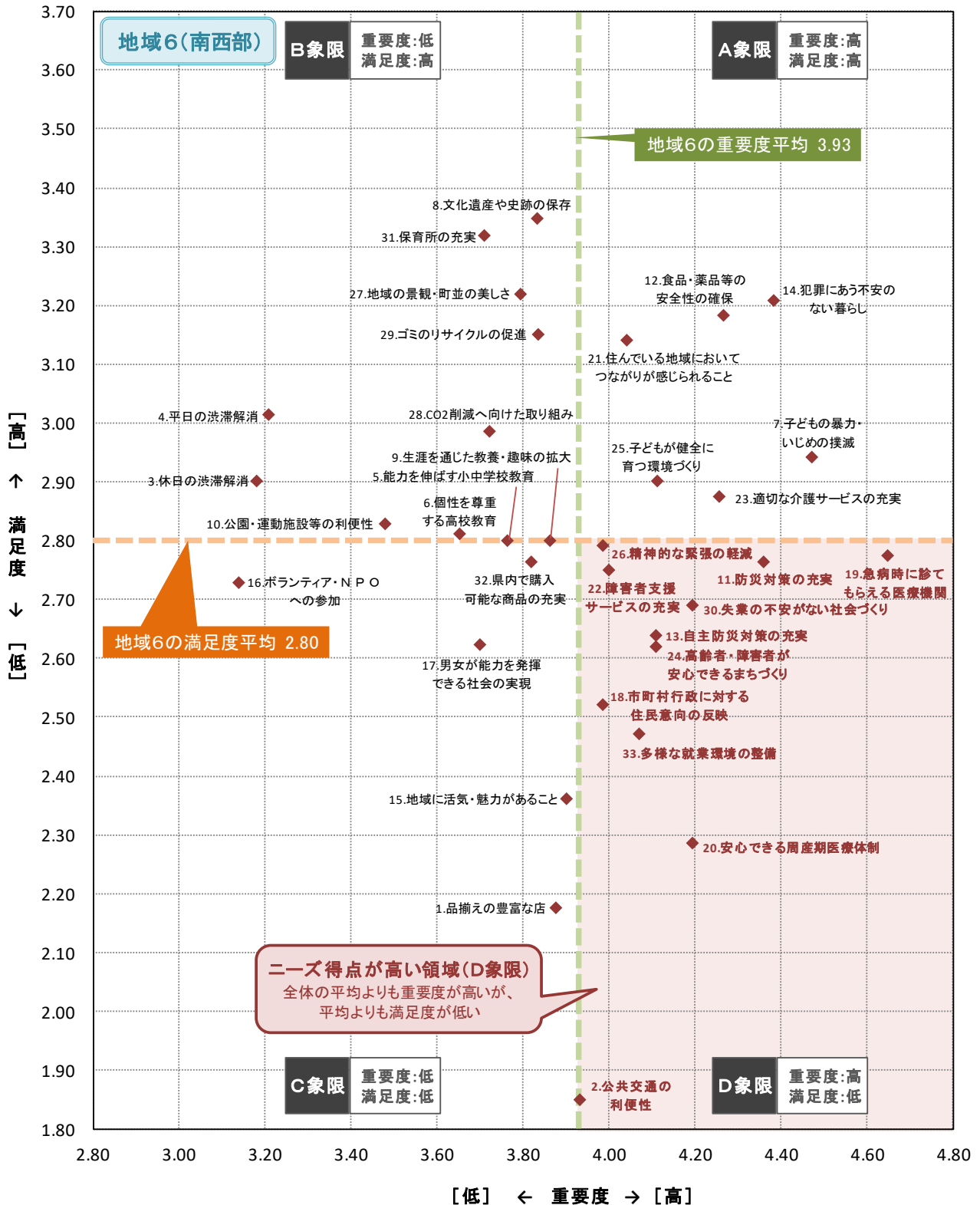
## ⑤地域5（南東部）

- 『地域5(南東部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「1. 品揃えの豊富な店」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。



## ⑥地域6（南西部）

- 『地域6(南西部)』では、「2. 公共交通の利便性」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「31. 保育所の充実」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃え豊富な店」となっています。



### 3～12. 県民の生活に関する意識やニーズについて

#### 3. 観光振興について

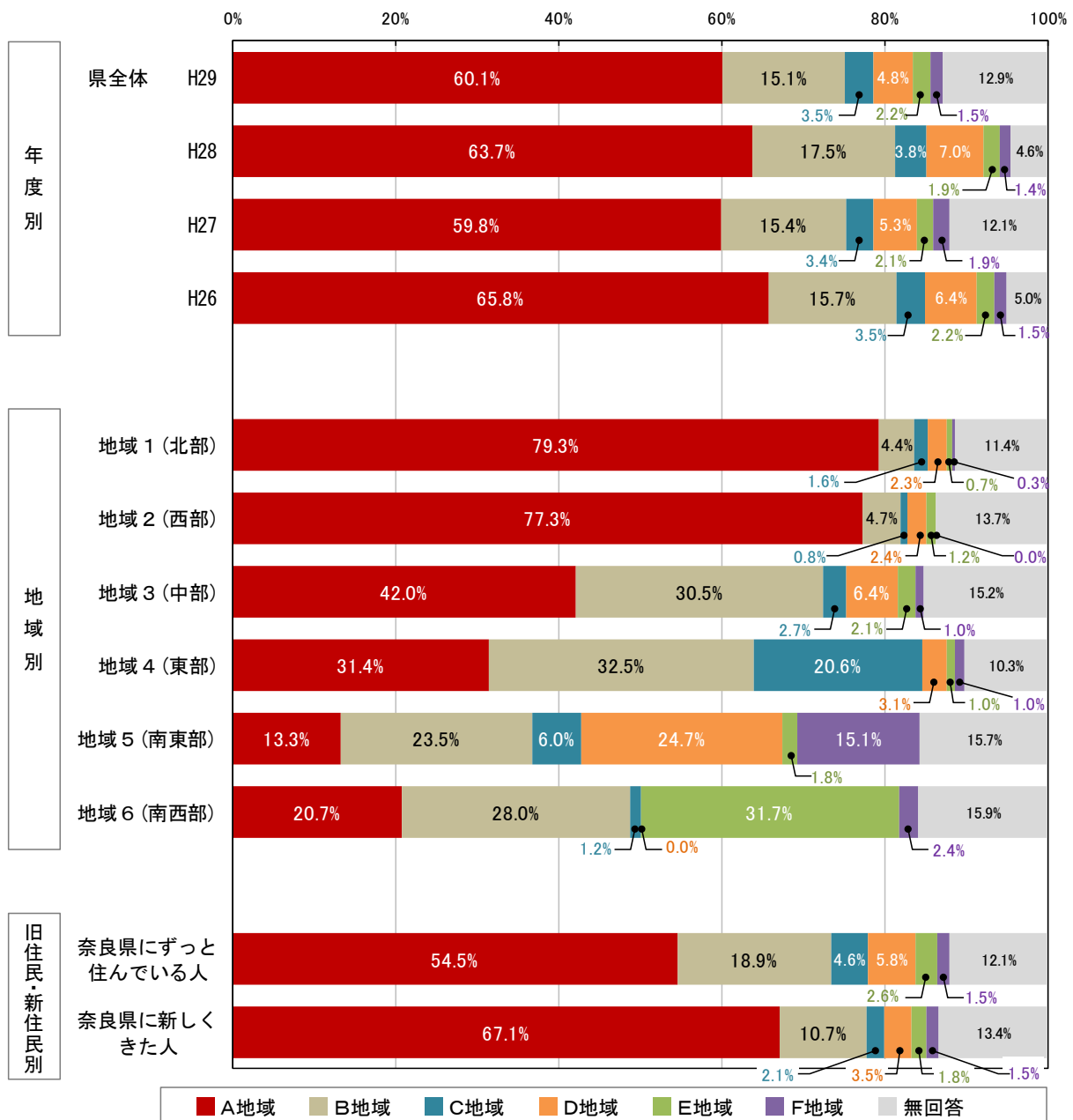
##### (1) 知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける地域 (問12)

■ 知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける地域について尋ねたところ、「A地域」(60.1%)が最も多く、次いで「B地域」(15.1%)となっています。

■ 平成26～28年度と比較すると、割合の差はありますが、各年度ともに「A地域」、「B地域」、「D地域」の順で多くなっています。

■ 地域別にみると、『地域1(北部)』、『地域2(西部)』、『地域3(中部)』では「A地域」、『地域4(東部)』では「B地域」、『地域5(南東部)』では「D地域」、『地域6(南西部)』では「E地域」が最も多くなっています。

■ 旧住民・新住民別にみると、旧住民・新住民ともに「A地域」が最も多くなっていますが、『奈良県に新しくきた人』(67.1%)が『奈良県にずっと住んでいる人』(54.5%)と比べ多くなっています。一方、「B地域」「C地域」「D地域」「E地域」については、『奈良県にずっと住んでいる人』の方が、『奈良県に新しくきた人』と比べ多くなっています。

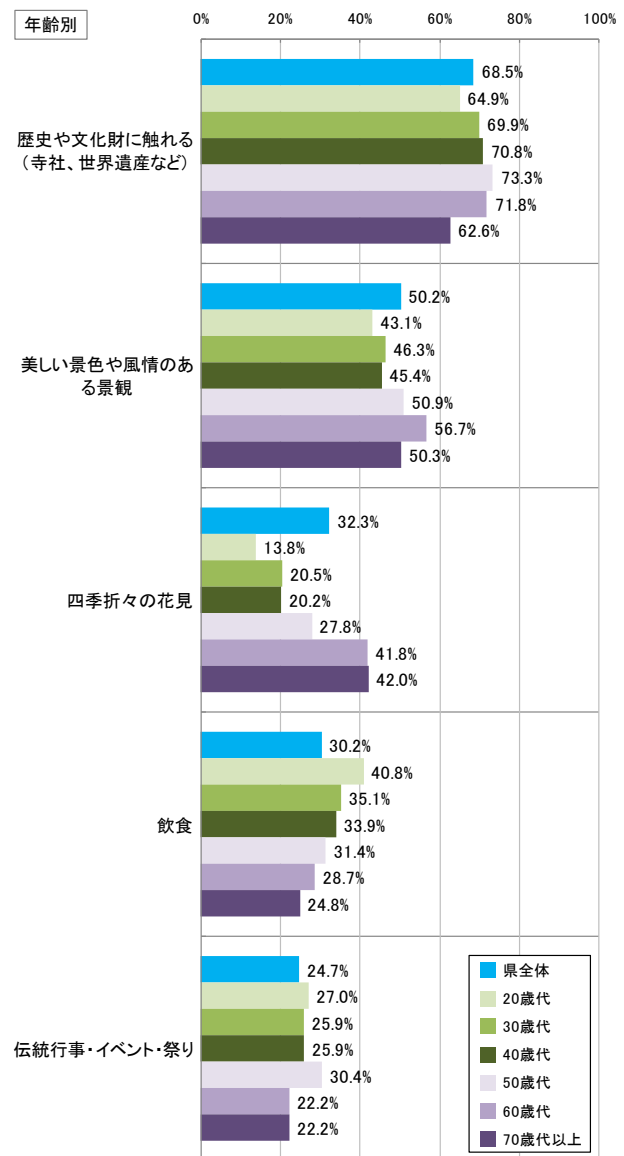
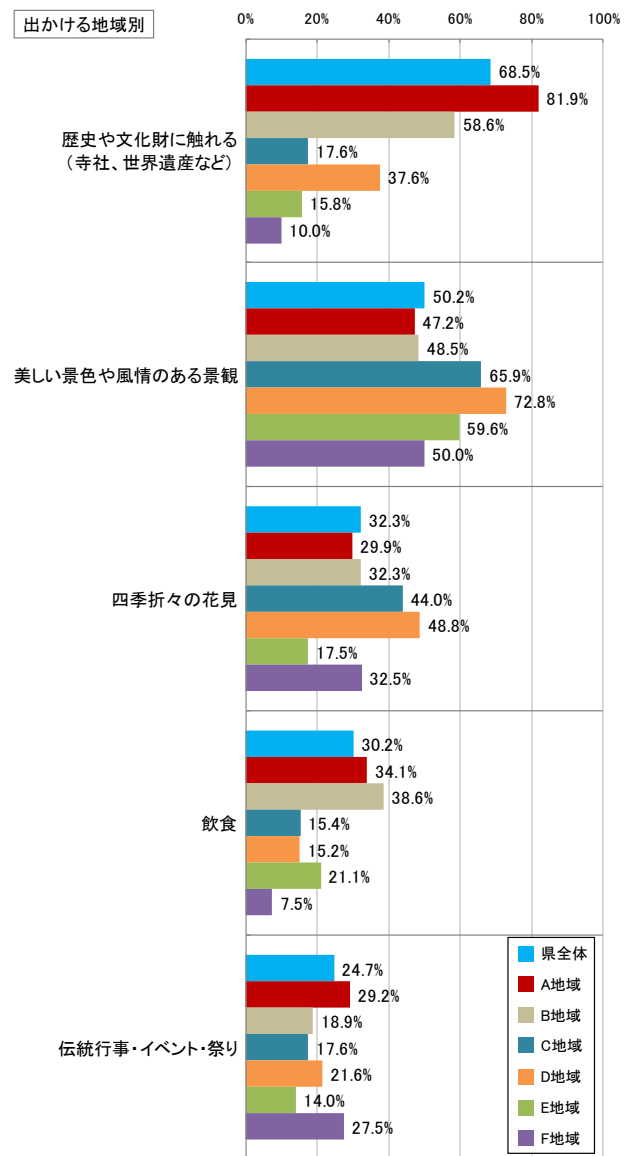


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

**A地域:** 奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、王寺町、斑鳩町、広陵町、山添村、安堵町、上牧町、河合町  
**B地域:** 大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村、高取町、川西町、田原本町、三宅町  
**C地域:** 宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村  
**D地域:** 吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村  
**E地域:** 五條市、野迫川村、十津川村  
**F地域:** 川上村、上北山村、下北山村

(2) 問 12 の地域へ観光・レクリエーションに出かける目的  
 (問 13 4つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 問 12 の地域へ観光・レクリエーションに出かける目的について尋ねたところ、「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」(68.5%)が最も多く、次いで「美しい景色や風情のある景観」(50.2%)、「四季折々の花見」(32.3%)、「飲食」(30.2%)、「伝統行事・イベント・祭り」(24.7%)となっています。
- 「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」、「伝統行事・イベント・祭り」と答えた人については、出かける地域別では『A地域』、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「美しい景色や風情のある景観」と答えた人については、出かける地域別では『D地域』、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「四季折々の花見」と答えた人については、出かける地域別では『D地域』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「飲食」と答えた人については、出かける地域別では『B地域』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。





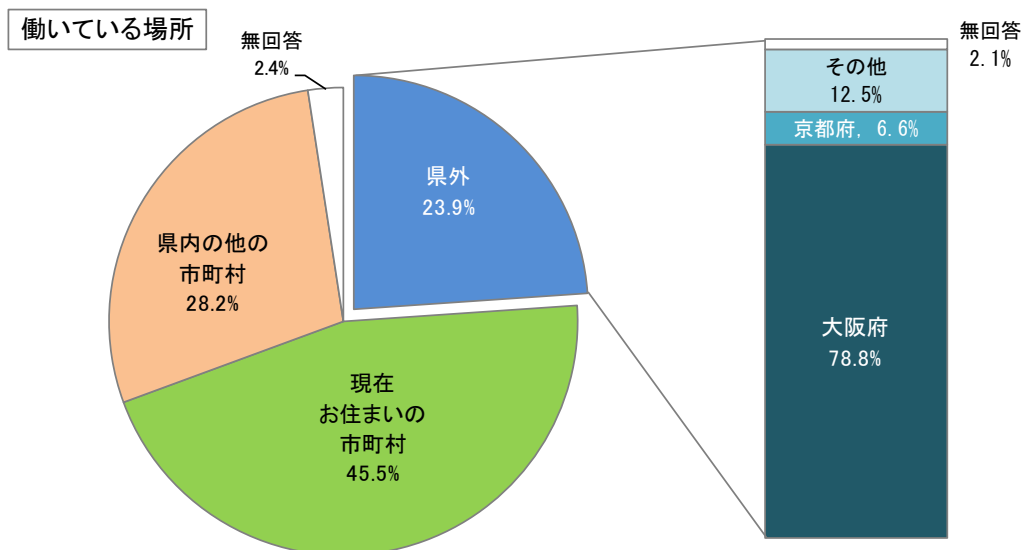
#### 4. 雇用対策について

##### (1) 働いている場所 (問15) と県内で働く意向・県外で働いている理由 (問16)

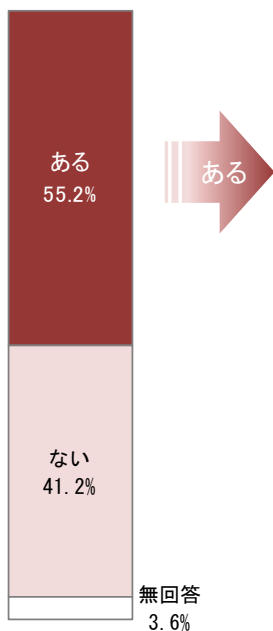
■ 仕事をしている人のうち「県外」で働いている人は、23.9%となっており、その内訳は「大阪府」が78.8%を占めています。

■ 「県外」で働いている人のうち、「県内」で働きたいと考えたことがあるのは55.2%となっています。

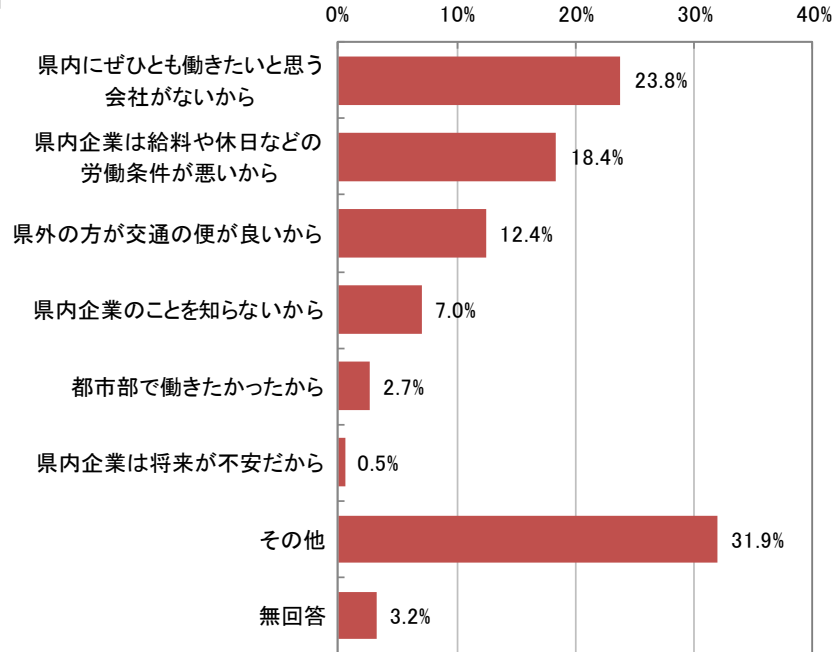
■ 「県内」で働きたいと考えたことがある人が、「県外」で働いている理由について尋ねたところ、「県内にぜひとも働きたいと思う会社がないから」(23.8%)が最も多くなっています。



県外で働いている人が、  
県内で働きたいと考えたことがあるか



県外で働いている理由



## (2) 在宅勤務制度等の利用状況 (問 19)

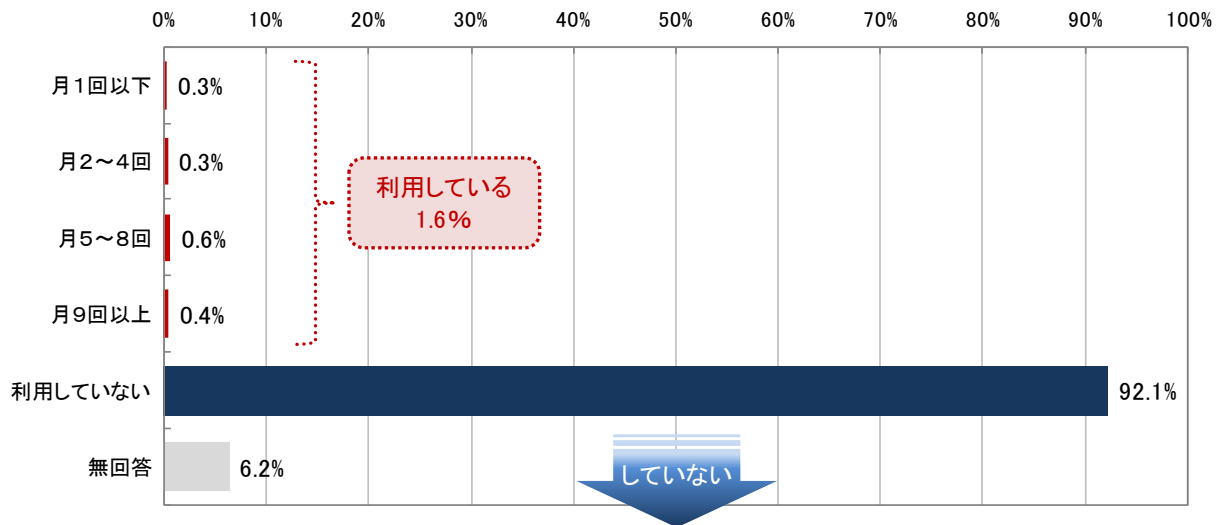
■勤務先の在宅勤務制度等(自宅や近くのサテライトオフィス等で勤務する制度)の利用有無・頻度については、「利用している」(「月1回以下」+「月2~4回」+「月5~8回」+「月9回以上」と答えた人の割合は 1.6%となっており、「利用していない」と回答した人が 92.1%を占めています。

\*回答対象者は、仕事が「正規の職員・従業員」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」、「パート・アルバイト(学生除く)」、「企業などの役員」と回答された方(回答者数:1,153件)のみ

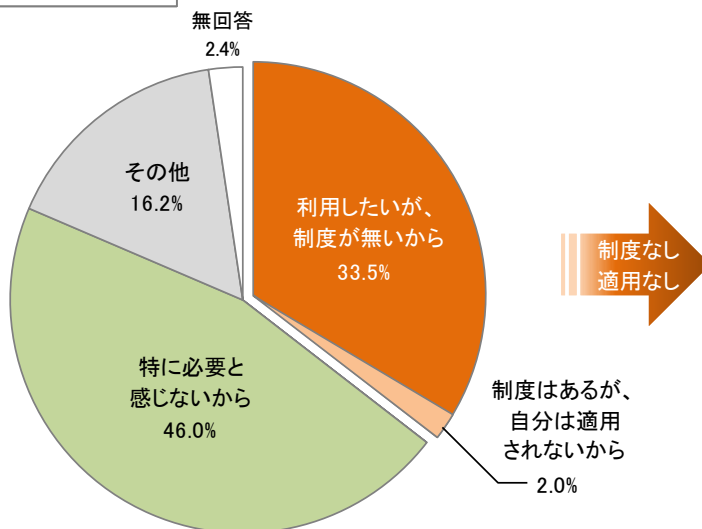
■「利用していない」と答えた理由を尋ねたところ、「特に必要と感ぜないから」(46.0%)が最も多く、次いで「利用したいが、制度が無いから」(33.5%)、「制度はあるが、自分は適用されないから」(2.0%)となっています。

■「利用したいが、制度が無いから」、「制度はあるが、自分は適用されないから」と回答した人に希望する利用頻度を尋ねたところ、「月2~4回」(41.1%)が最も多く、次いで「月1回以下」(23.9%)、「月9回以上」(17.0%)、「月5~8回」(13.5%)となっています。

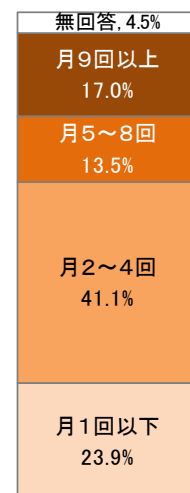
利用有無・頻度



利用していない理由



利用希望頻度



## 5. 健康づくりについて

### (1) 自らの健康づくりの取組状況及び今後の意向

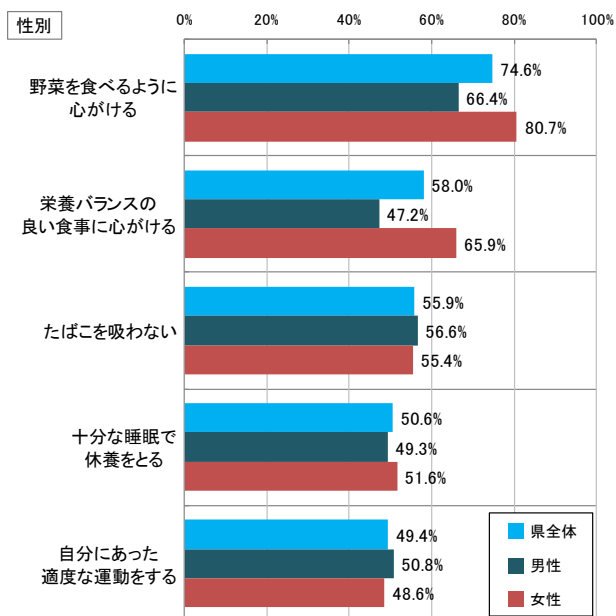
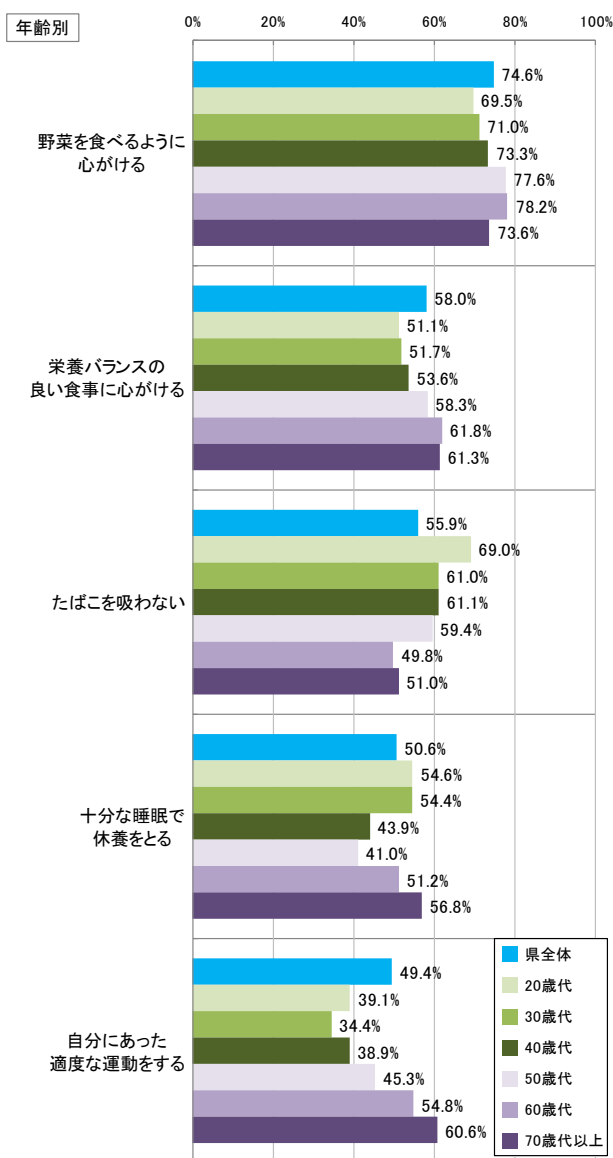
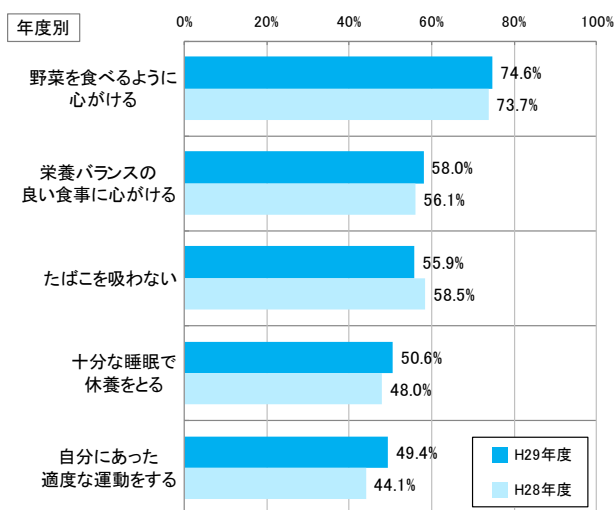
#### ①この1年間にした健康づくり（問20-① 複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

■この1年間に自らの健康づくりのためにしたことは、県全体・男性・女性ともに「野菜を食べるように心がける」（県全体 74.6%）が最も多くなっています。次いで、県全体と女性では「栄養バランスの良い食事に心がける」（県全体 58.0%）、男性では「たばこを吸わない」となっています。

■平成28年度と比較すると、「自分にあった適度な運動をする」と答えた人が5.3ポイント増加しています。

■性別にみると、『女性』の方が『男性』より10ポイント以上多い項目が、「野菜を食べるように心がける」、「栄養バランスの良い食事に心がける」となっています。

■年齢別にみると、「野菜を食べるように心がける」、「栄養バランスの良い食事に心がける」、「自分にあった適度な運動をする」と答えた人は、概ね年代が高くなるほど多くなっています。一方、「たばこを吸わない」と答えた人は、『20歳代』が最も多くなっています。



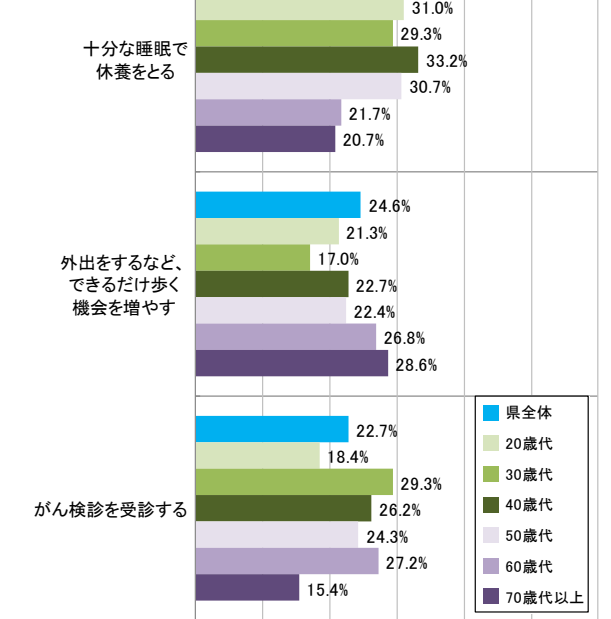
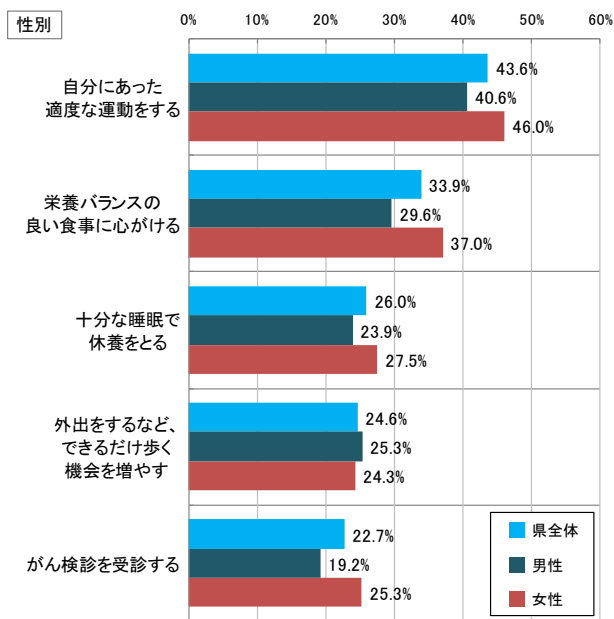
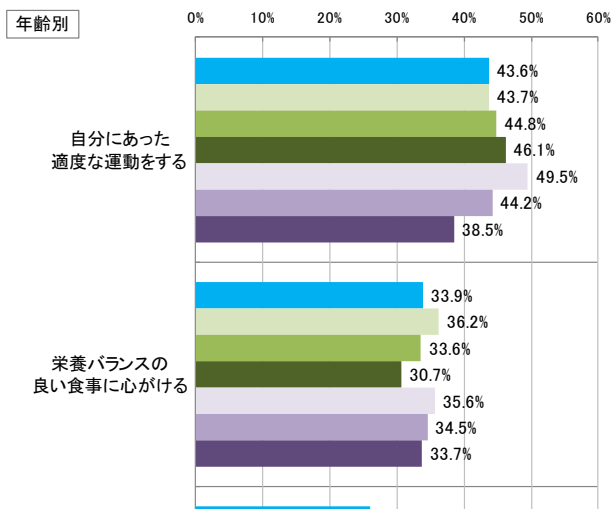
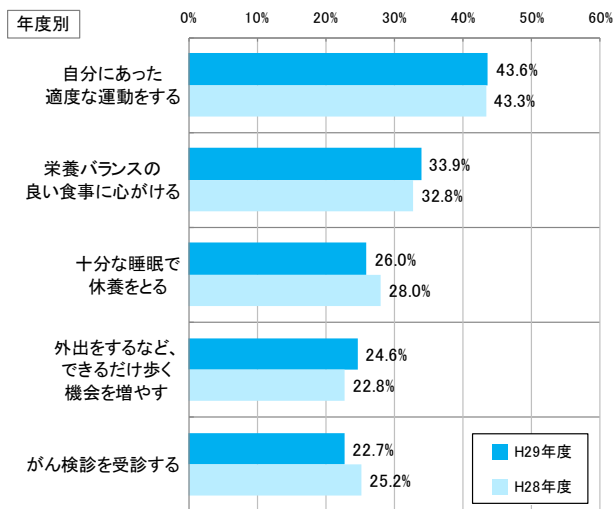
②今後したい健康づくり（問 20-②） 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

■ 今後、どのような健康づくりをしたいかは、県全体・男性・女性ともに「自分にあった適度な運動をする」（県全体 43.6%）が最も多く、次いで「栄養バランスの良い食事に心がける」（県全体 33.9%）となっています。

■ 平成 28 年度と比較すると、「がん検診を受診する」と答えた人が 2.5 ポイント、「十分な睡眠で休養をとる」と答えた人が 2.1 ポイント減少しています。

■ 性別にみると、『女性』の方が『男性』より5ポイント以上多い項目が、「自分にあった適度な運動をする」、「栄養バランスの良い食事に心がける」、「がん検診を受ける」となっています。

■ 年齢別にみると、すべての年代で「自分にあった適度な運動をする」が最も多くなっています。次いで、40 歳代では「十分な睡眠で休養をとる」、他の年齢層では「栄養バランスの良い食事に心がける」となっています。

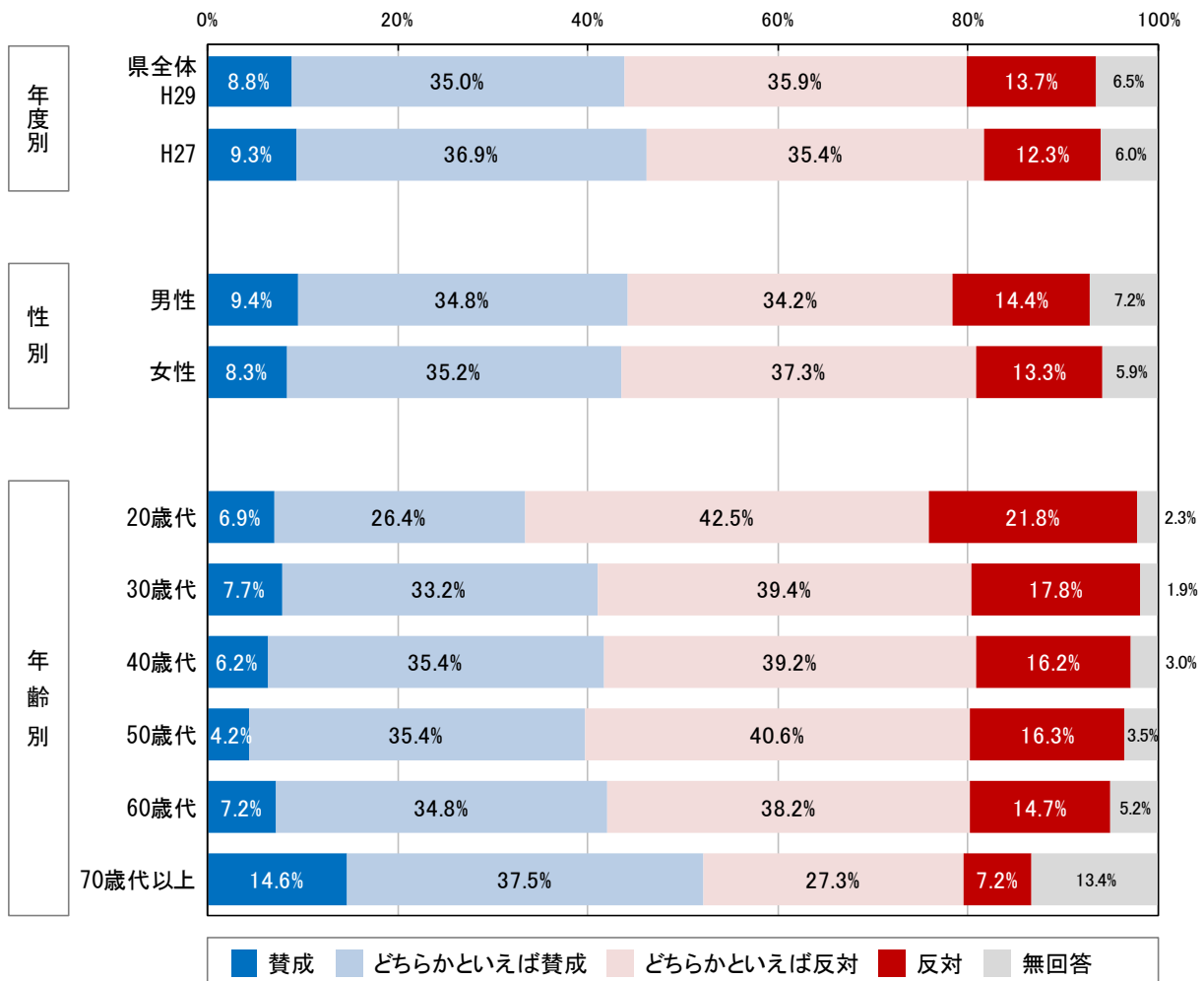


## 6. 女性の活躍推進について

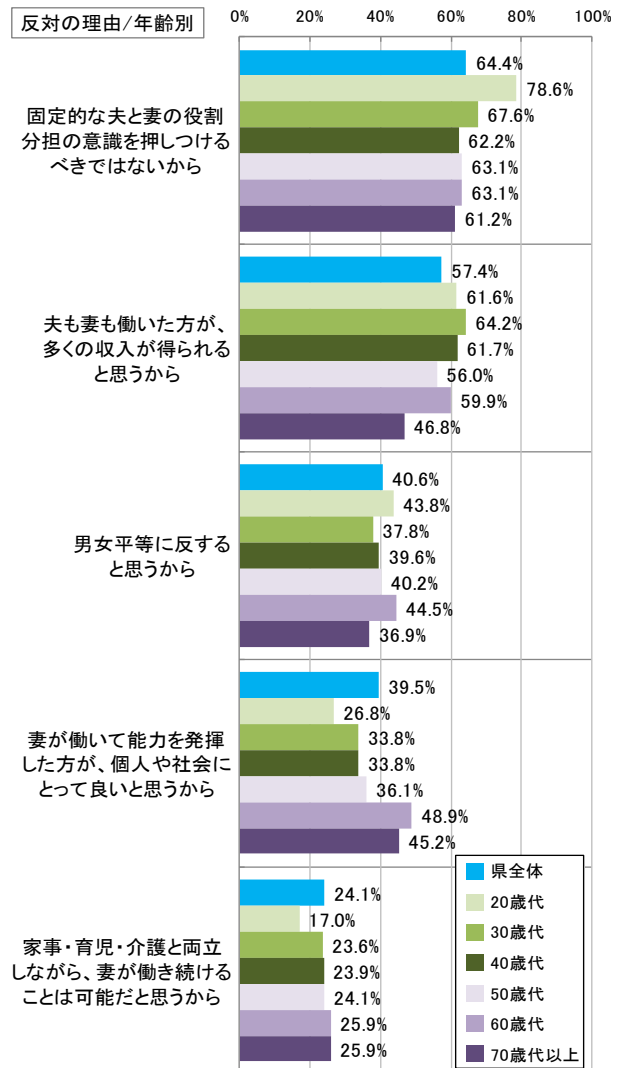
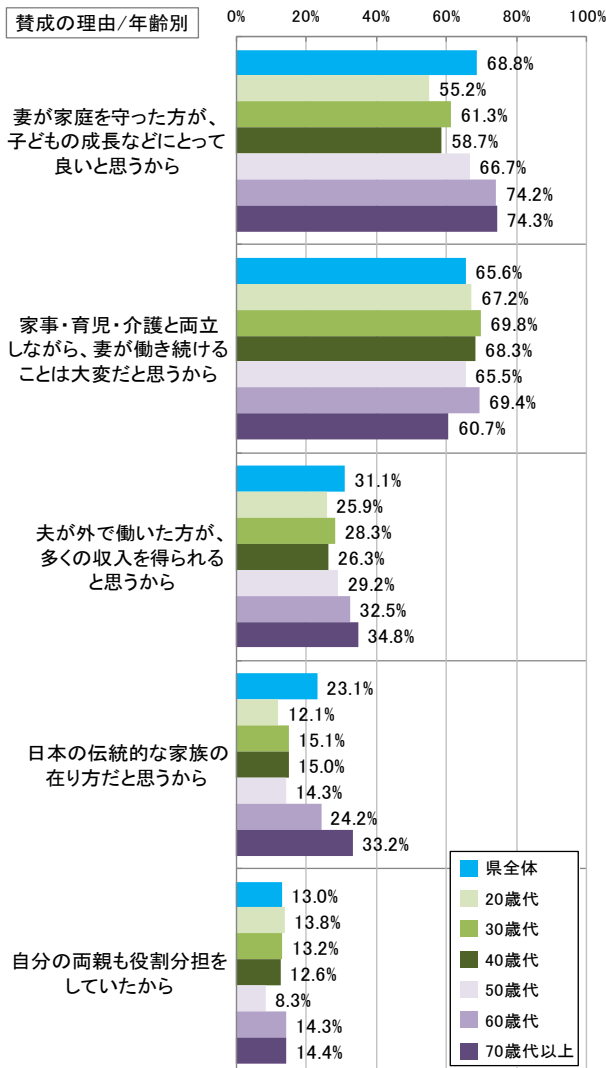
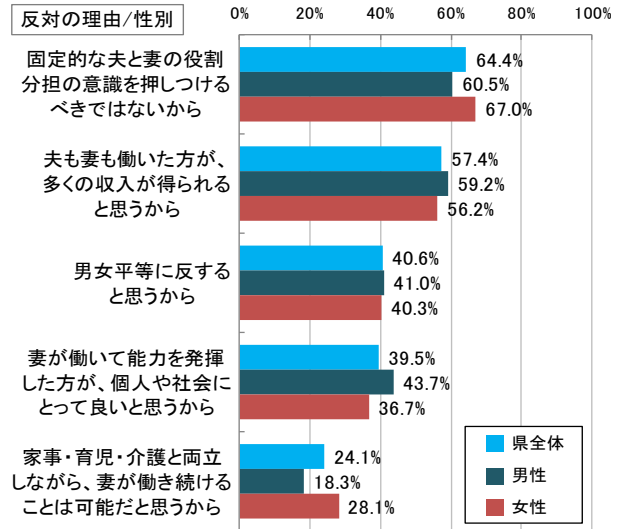
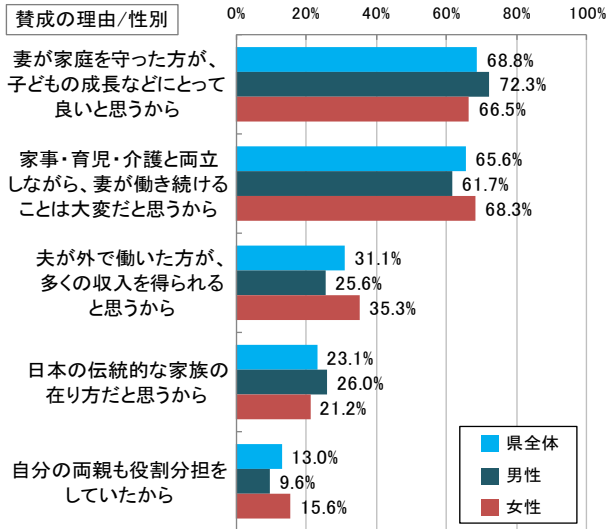
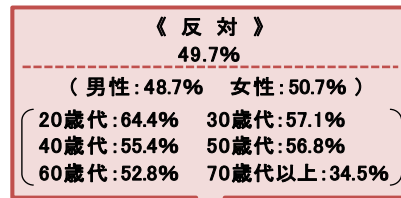
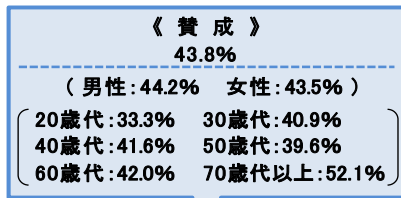
### (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方の賛否(問21)とその理由

(問22 複数回答 県全体についての上位5項目を掲載、問23 複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、《賛成》(「賛成」+「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は43.8%で平成27年度(46.2%)より2.4ポイント減少し、《反対》(「どちらかといえば反対」または「反対」と答えた人の割合は49.7%で平成27年度(47.8%)より1.9ポイント増加しています。
- 性別にみると、《賛成》の割合は『男性』(44.2%)の方が、『女性』(43.5%)より0.7ポイント多くなっています。一方、《反対》の割合は『女性』(50.7%)の方が、『男性』(48.7%)より2.0ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、《賛成》の割合は『70歳代以上』(52.1%)が最も多く、次いで『60歳代』(42.0%)、『40歳代』(41.6%)となっています。一方、《反対》の割合は『20歳代』(64.4%)が最も多く、次いで『30歳代』(57.1%)となっています。
- 《賛成》の理由について尋ねたところ、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」(68.8%)が最も多く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(65.6%)、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(31.1%)、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」(23.1%)、「自分の両親も役割分担をしていたから」(13.0%)となっています。
- 性別にみると、『女性』では「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多く、『男性』では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も多くなっています。
- 年齢別にみると、20～40歳代では「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多く、50～60歳代、70歳代以上では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も多くなっています。
- 《反対》の理由について尋ねたところ、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」(64.4%)が最も多く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(57.4%)、「男女平等に反すると思うから」(40.6%)、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(39.5%)、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」(24.1%)となっています。
- 性別にみると、男性・女性ともに「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多くなっています。
- 年齢別にみると、すべての年代で「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。



## 7. 子育て支援について

### (1) 子育てに関する満足度 (問 24 5段階ポイント評価)

- 子育てに関する6項目の満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 満足度は、「4. 気軽に相談できる環境が整っている」が3.22ポイントで6項目の中で一番高くなっています。
- 平成26年度と比較すると、6項目すべてで満足度が増加しており、特に「4. 気軽に相談できる環境が整っている」では0.43ポイント、「1. 仕事と子育てが両立できる」では0.42ポイント増加しています。
- 地域別にみると、『地域4(東部)』は6項目すべて、『地域6(南西部)』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『地域2(西部)』、『地域3(中部)』、『地域5(南東部)』は5項目で県全体の満足度より低くなっています。
- 性別にみると、『男性』は6項目すべてで県全体の満足度より高くなっています。
- 年齢別にみると、『60歳代』は6項目すべて、『50歳代』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『70歳代以上』は6項目すべてで県全体の満足度より低くなっています。



※棒グラフの外側に示した数値は、県全体よりも高いもの

## 8. 文化振興について

### (1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無 (問 25)

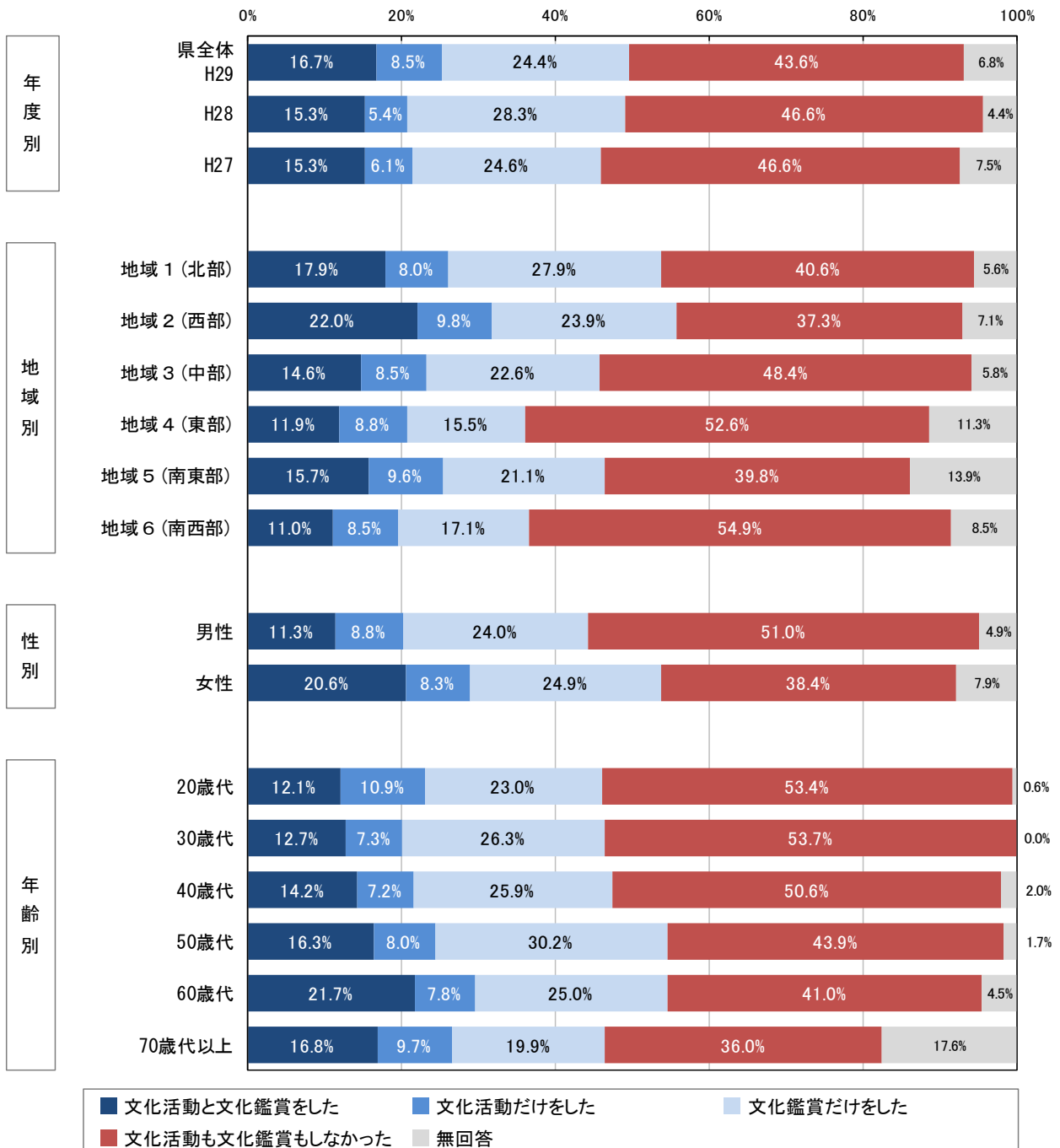
■この1年間の文化活動・文化鑑賞\*の有無については、「文化活動または文化鑑賞をした人」(「文化活動と文化鑑賞をした」+「文化活動だけをした」+「文化鑑賞だけをした」)の割合は49.6%で、平成28年度(49.0%)と比べて0.6ポイント、平成27年度(45.9%)と比べて3.7ポイント増加しています。

〔\*「文化活動」とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般をいいます。  
「文化鑑賞」とは、公演・展覧会など鑑賞全般をいいます。(家庭内での音楽鑑賞等を除きます)〕

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を地域別にみると、『地域2(西部)』(55.7%)が最も多く、次いで『地域1(北部)』(53.8%)となっています。一方、『地域4(東部)』(36.1%)と『地域6(南西部)』(36.6%)では3割台となっています。

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を性別にみると、『女性』(53.7%)の方が、『男性』(44.2%)より9.6ポイント多くなっています。

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を年齢別にみると、『60歳代』(54.5%)が最も多く、次いで『50歳代』(54.5%)となっています。一方、20～40歳代では「文化活動も文化鑑賞もしなかった」と答えた人が5割以上となっています。

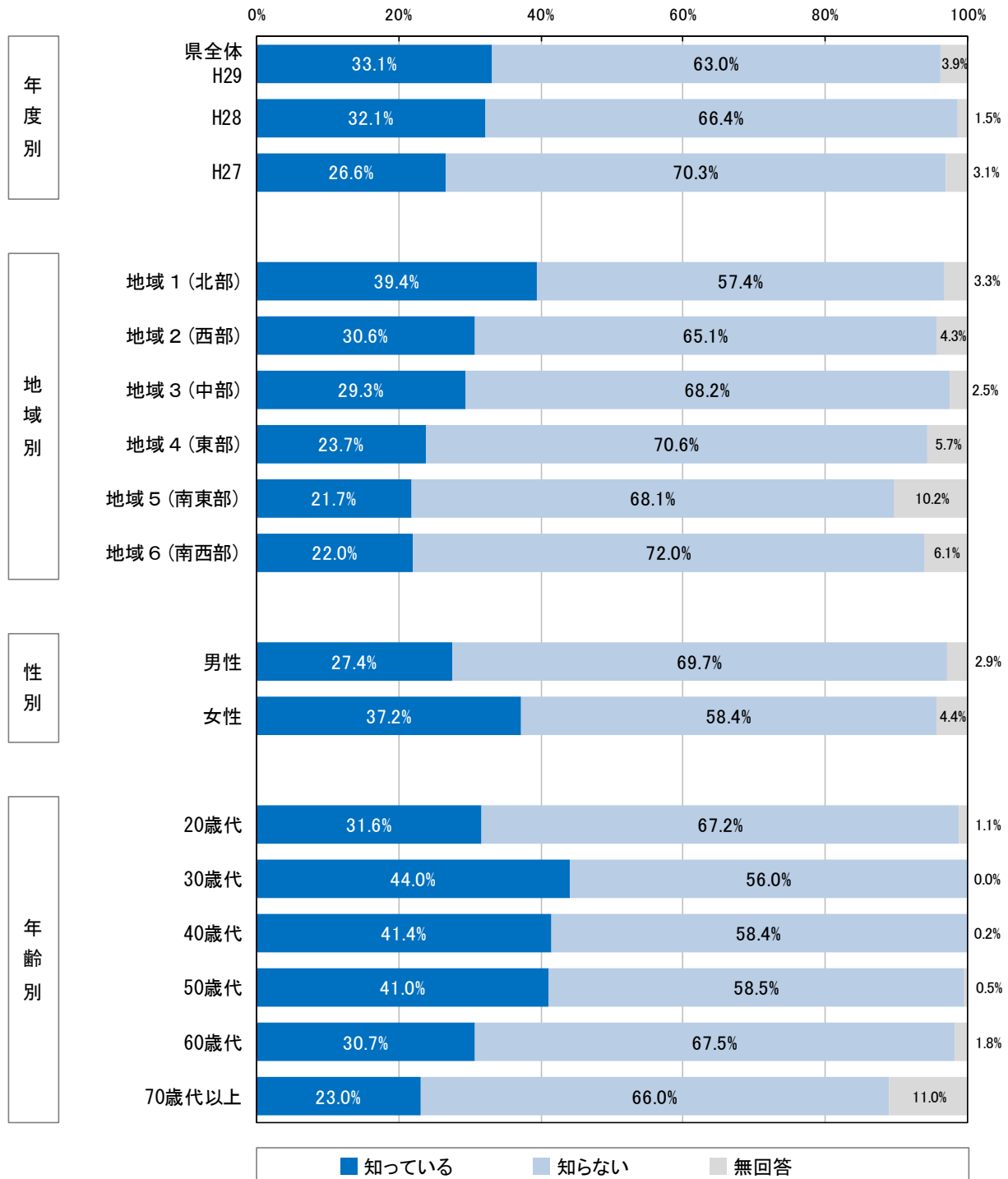


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。



## (2) 「ムジークフェストなら」の認知度 (問26)

- ムジークフェストなら 2016 の認知度については、「知らない」(63.0%)が「知っている」(33.1%)と比べ多くなっています。「知っている」(33.1%)と答えた人は、年々増加傾向にあり、平成28年度(32.1%)と比べて1.0ポイント、平成27年度(26.6%)と比べて6.5ポイント増加しています。
- 「知っている」と答えた人を地域別にみると、『地域1(北部)』(39.4%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(30.6%)となっています。一方、『地域5(南東部)』(21.7%)と『地域6(南西部)』(22.0%)では少なくなっています。
- 「知っている」と答えた人を性別にみると、『女性』(37.2%)の方が、『男性』(27.4%)より9.8ポイント多くなっています。
- 「知っている」と答えた人を年齢別にみると、『30歳代』(44.0%)が最も多く、次いで『40歳代』(41.4%)、『50歳代』(41.0%)となっています。一方、『70歳代以上』(23.0%)では少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

## 9. スポーツ振興について

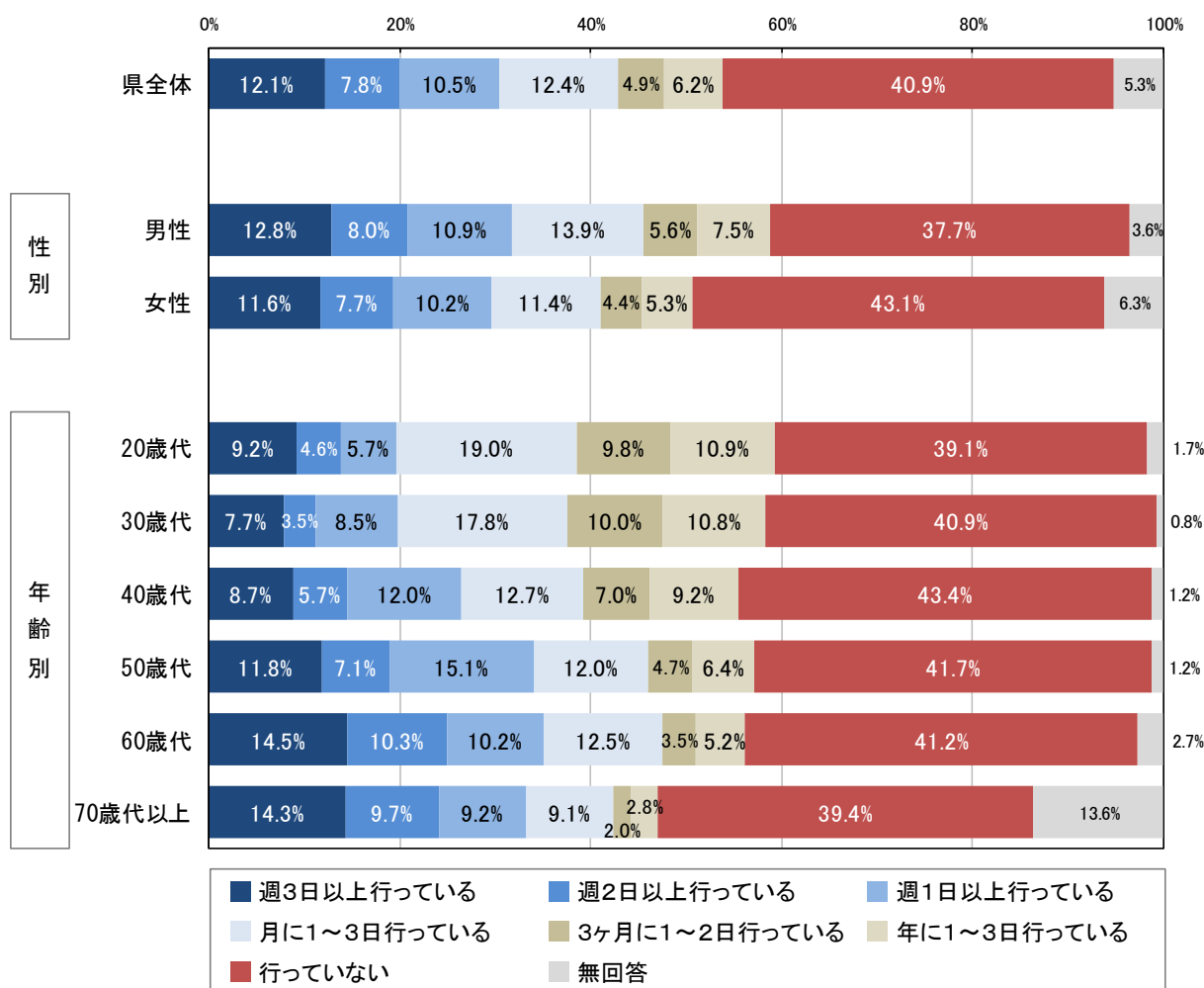
### (1) この1年間の運動・スポーツの実施状況

#### ①この1年間に運動・スポーツを行った日数 (問 28)

■この1年間に運動・スポーツを1日でも行った人の割合(「週3日以上行っている」～「年に1～3日行っている」の合計)は、53.8%となっています。一方、「行っていない」と答えた人は40.9%となっています。

■1日でも行った人の割合を性別にみると、『男性』(58.7%)の方が『女性』(50.6%)より8.1ポイント多くなっています。

■1日でも行った人の割合を年齢別にみると、『20歳代』(59.2%)が最も多く、次いで『30歳代』(58.3%)となっており、60歳代以下では55%以上が運動やスポーツを行っています。また、『60歳代』、『70歳代以上』では、「週に3日以上行っている」と答えた人が他の年代と比べて多くなっています。

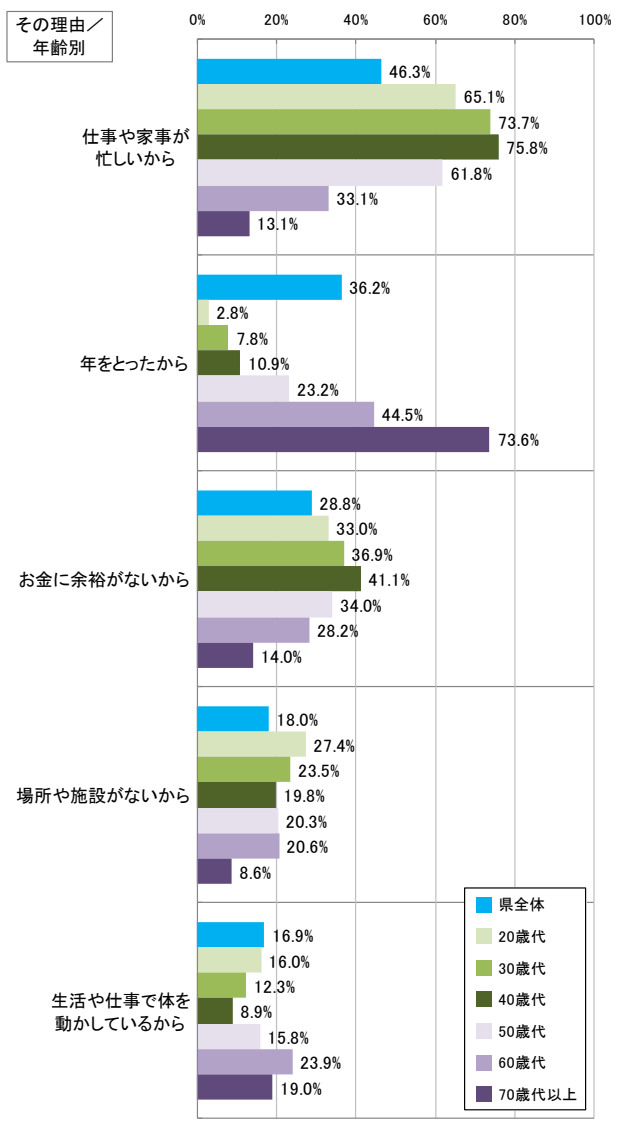
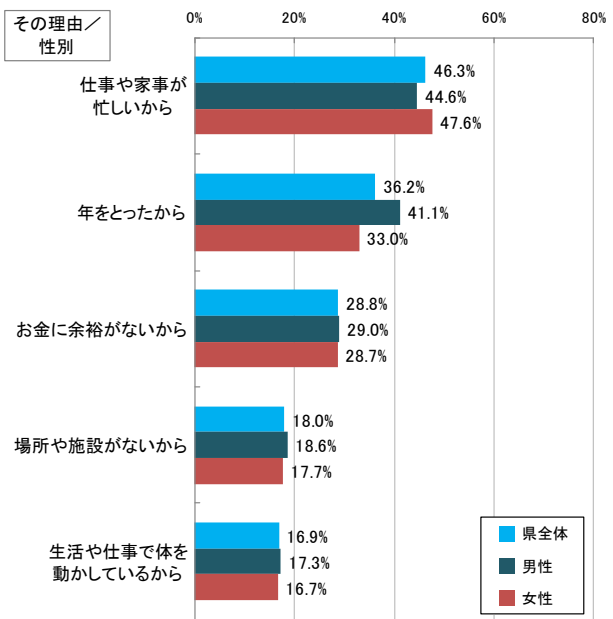
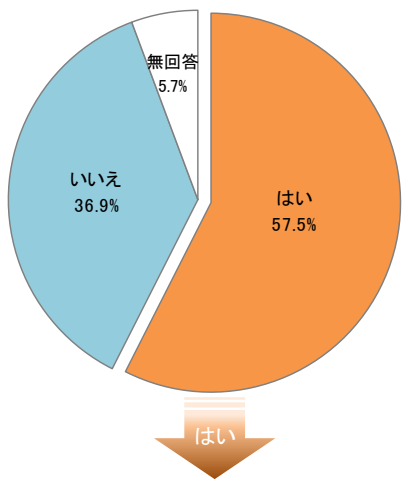


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

② 1年前と比べて運動・スポーツの実施頻度が減った、または増やせていないか  
(問 30、副問 複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比べて運動・スポーツの実施頻度が減った、または増やしたいのに増やすことが出来ないと感じているかは、「はい」が57.5%、「いいえ」が36.9%となっています。
- 「はい」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「仕事や家事が忙しいから」(46.3%)が最も多く、次いで「年をとったから」(36.2%)、「お金に余裕がないから」(28.8%)、「場所や施設がないから」(18.0%)、「生活や仕事で体を動かしているから」(16.9%)となっています。
- 「仕事や家事が忙しいから」と答えた人は、性別では『女性』が多く、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「年をとったから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「お金に余裕がないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。
- 「場所や施設がないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「生活や仕事で体を動かしているから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。

1年前と比べて頻度が減った、または増やしたいのに増やすことが出来ないと感じるか



## 10. 安全・安心の確保について

### (1) 奈良県の治安情勢と犯罪等被害防止のための施策について

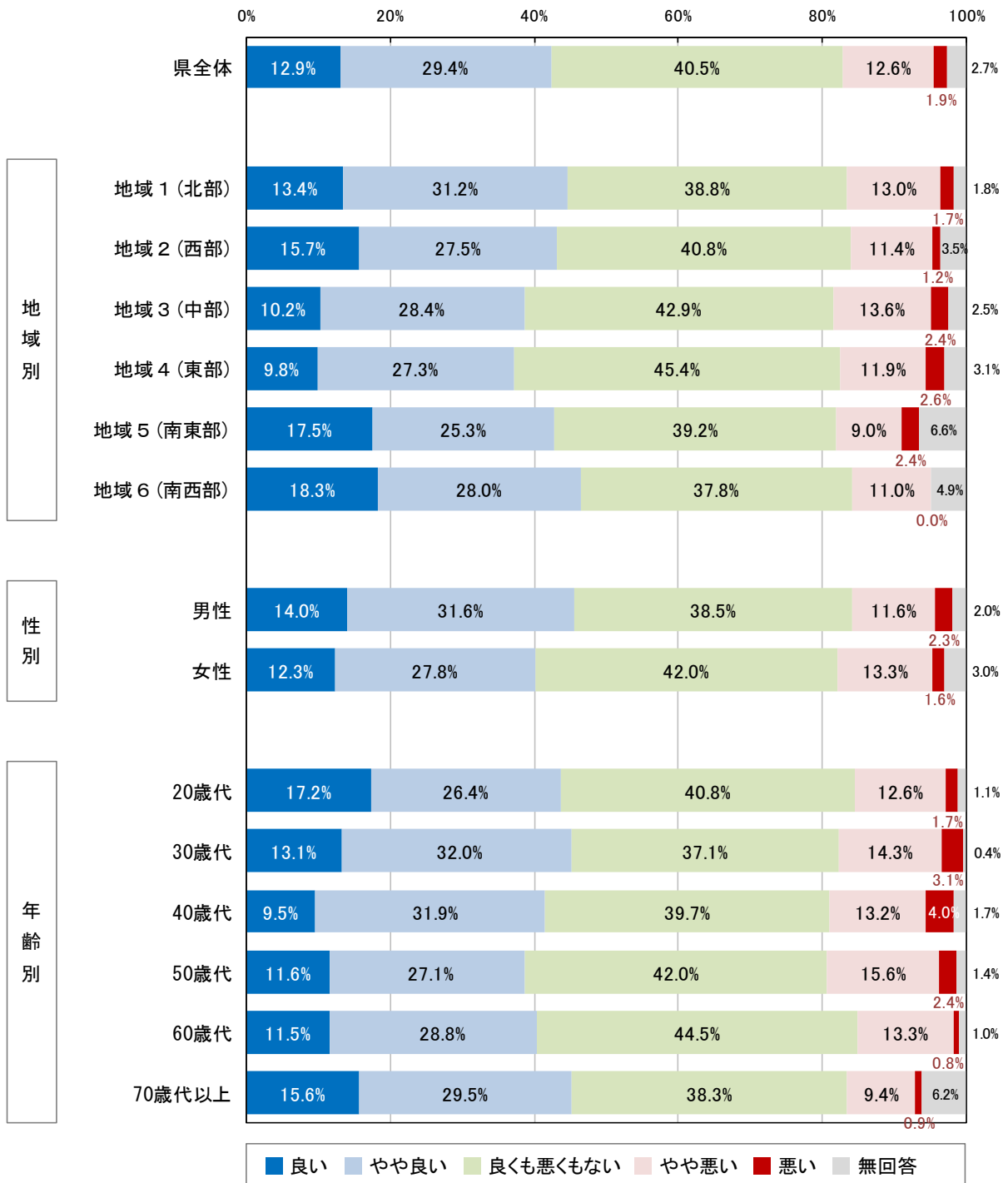
#### ①現在の奈良県の治安情勢（問31）

■現在の奈良県の治安情勢については、「良い」（「良い」+「やや良い」）と感じている人は42.3%、「悪い」（「やや悪い」+「悪い」）と感じている人は14.5%となっています。

■地域別にみると、「良い」と感じている人は『地域6（南西部）』（46.3%）が最も多く、次いで『地域1（北部）』（44.6%）、『地域2（西部）』（43.1%）となっています。一方、「悪い」と感じている人は『地域3（中部）』（16.0%）が最も多くなっています。

■性別にみると、「良い」と感じている人は『男性』（45.5%）の方が、『女性』（40.1%）より5.5ポイント多くなっています。

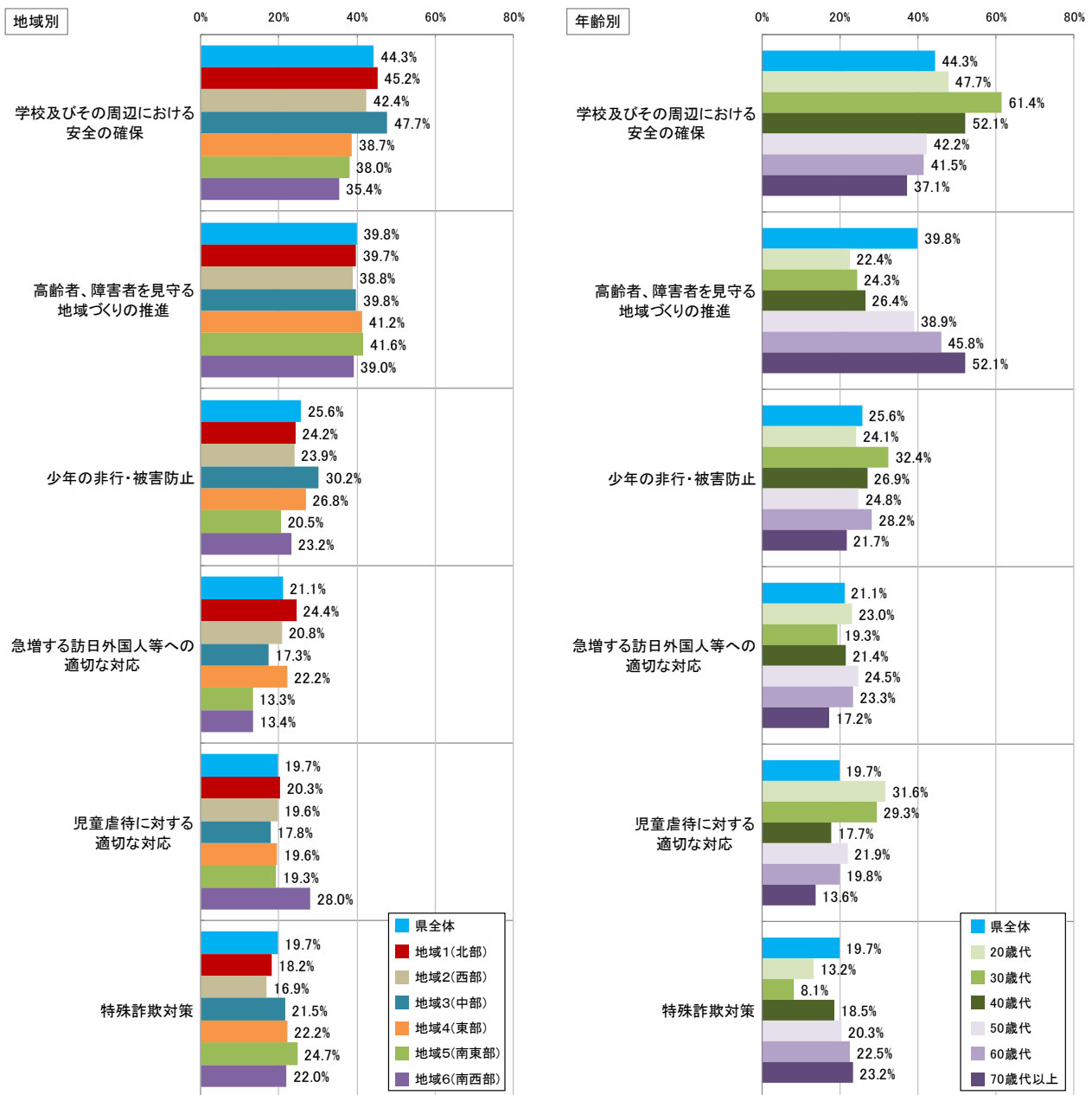
■年齢別にみると、「良い」と感じている人は『30歳代』（45.2%）が最も多く、次いで『70歳代以上』（45.1%）、『20歳代』（43.7%）となっています。一方、「悪い」と感じている人は『50歳代』（17.9%）が最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

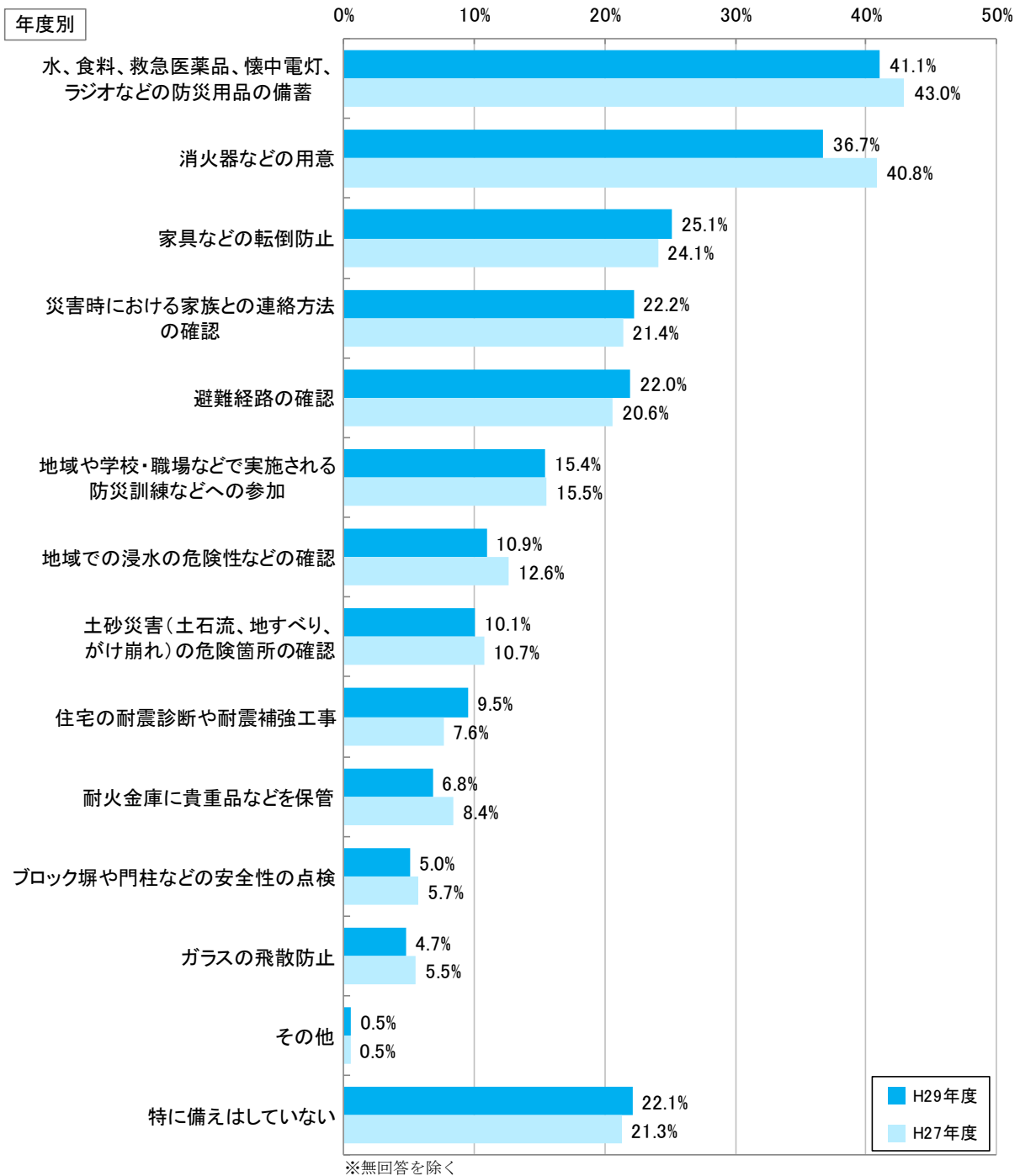
②地方公共団体が犯罪やトラブル等の被害から県民を守るために優先して推進すべき施策  
(問 32 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 地方公共団体が犯罪やトラブル等の被害から県民を守るために優先して推進すべき施策については、「学校及びその周辺における安全の確保」(44.3%)が最も多く、次いで「高齢者、障害者を見守る地域づくりの推進」(39.8%)、「少年の非行・被害防止」(25.6%)、「急増する訪日外国人等への適切な対応」(21.1%)、「児童虐待に対する適切な対応」・「特殊詐欺対策」(同率 19.7%)となっています。
- 「学校及びその周辺における安全の確保」、「少年の非行・被害防止」と答えた人は、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「高齢者、障害者を見守る地域づくりの推進」、「特殊詐欺対策」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「急増する訪日外国人等への適切な対応」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』、年齢別では『50歳代』が最も多くなっています。
- 「児童虐待に対する適切な対応」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。



## (2) 自然災害等に対して備えていること (問 35 複数回答)

- 自然災害等に対して備えていることは、「水、食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの防災用品の備蓄」(41.1%)が最も多く、次いで「消火器などの用意」(36.7%)、「家具などの転倒防止」(25.1%)となっています。
- 平成 27 年度と比較すると、「住宅の耐震診断や耐震補強工事」は 1.9 ポイント、「避難経路の確認」は 1.4 ポイント増加しています。一方、「消火器などの用意」は 4.1 ポイント、「水、食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの防災用品の備蓄」は 1.9 ポイント減少しています。
- 「特に備えはしていない」は 22.1%となっており、前回調査よりも 0.8 ポイント増加しています。



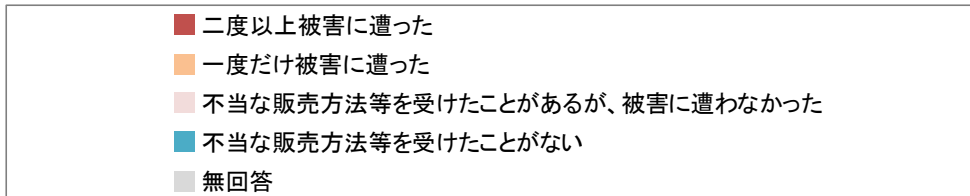
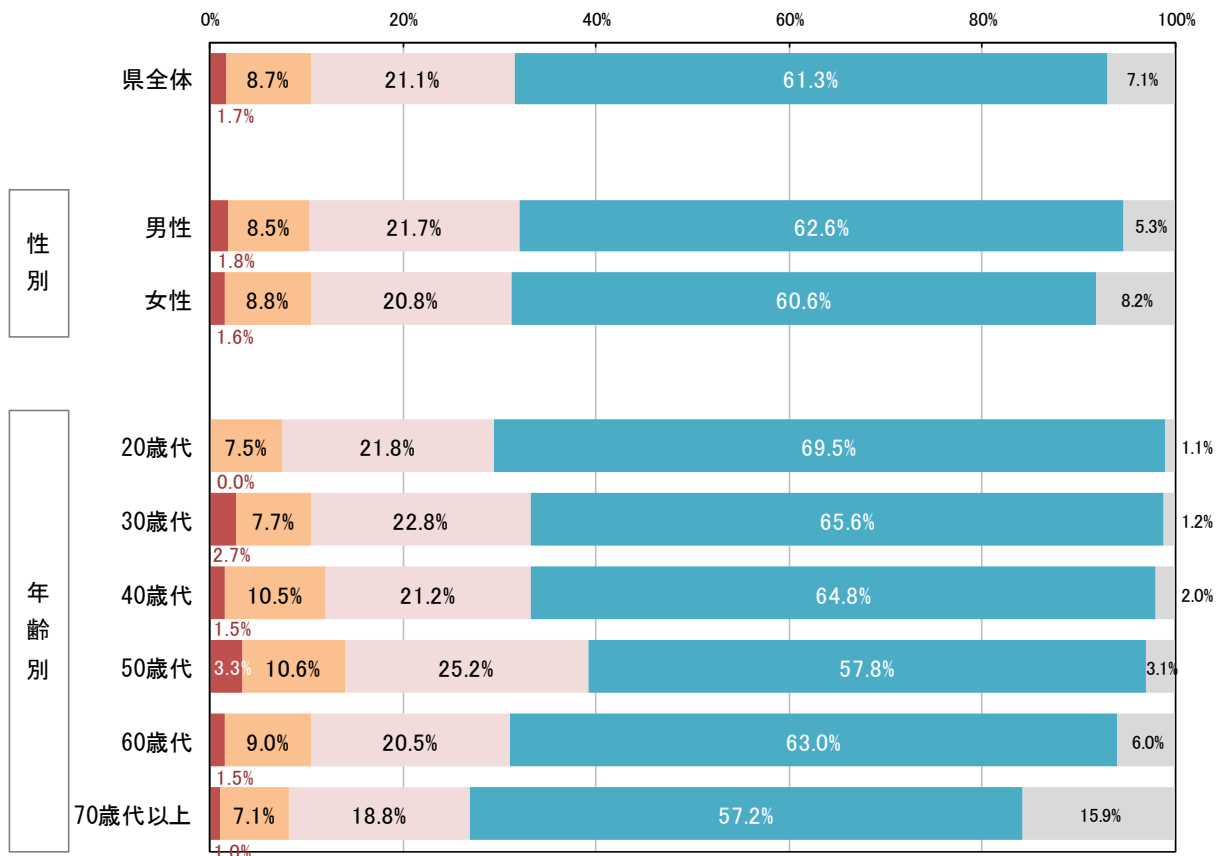
### (3) 悪質商法等の消費者被害にあった経験 (問 36)

■ 悪質商法等の消費者被害\*にあった経験は、「被害経験あり」(「二度以上被害に遭った」+「一度だけ被害に遭った」)の割合は10.4%となっています。また、「不当な販売方法等を受けたことがあるが、被害には遭わなかった」と合わせると31.5%が「不当販売経験あり」と答えています。

\*「悪質商法等の消費者被害」とは、点検商法、催眠(SF)商法、資格商法、内職商法、マルチ商法、キャッチセールス、デート商法、インターネットトラブル等の不当な販売方法や、消費者が購入した商品、サービス等の安全上の問題、虚偽表示等に関する被害などをいいます。

■ 性別でみると、「被害経験あり」の割合は、『男性』が10.3%、『女性』が10.4%で、ほぼ同率となっています。

■ 年齢別でみると、「被害経験あり」の割合は、『50歳代』が13.9%で最も多く、次いで『40歳代』が12.0%となっています。一方、『20歳代』が7.5%で最も低く、次いで『70歳代以上』が8.1%となっています。また、「不当な販売方法等を受けたことがあるが、被害に遭わなかった」の割合も『50歳代』が25.2%で最も高く、他の年代と比べて高くなっています。

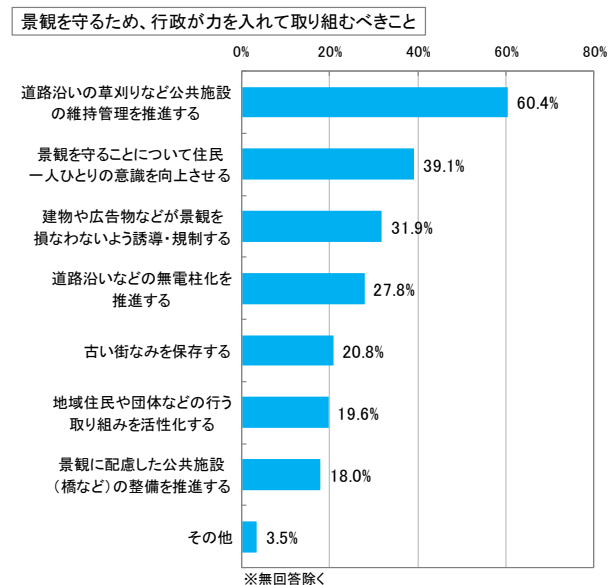
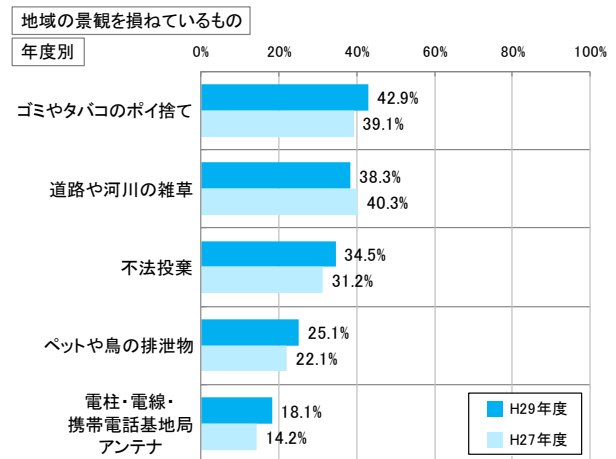
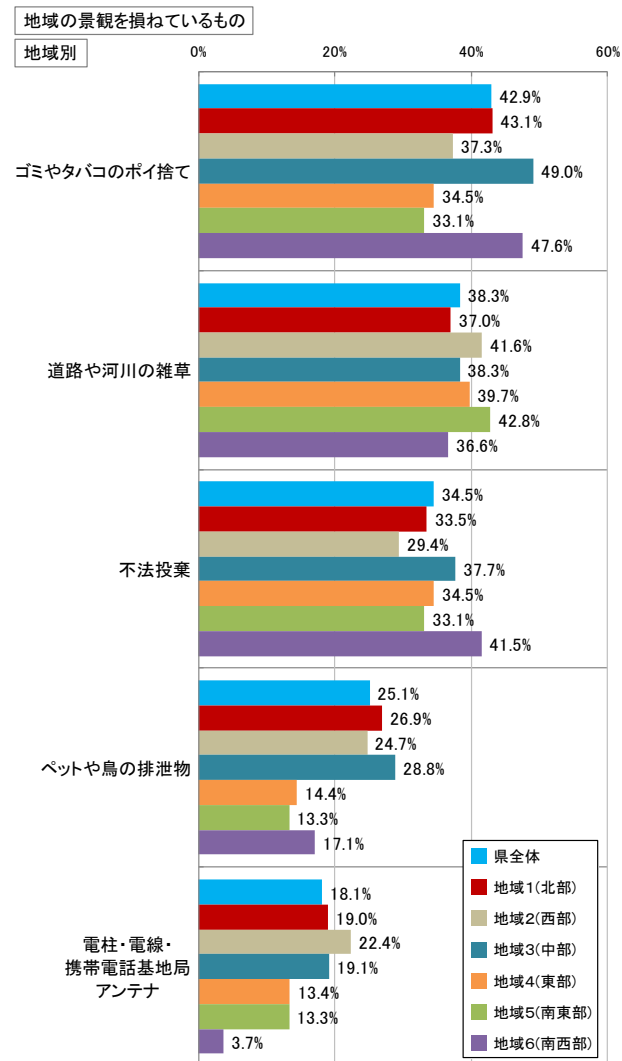


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

## 11. 景観・環境の保全と創造について

### (1) 地域の景観を損ねているもの（問38 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）や景観の保全について（問39 3つ以内で複数回答）

- 地域の景観を損ねているものは、「ゴミやタバコのポイ捨て」(42.9%)が最も多く、次いで「道路や河川の雑草」(38.3%)、「不法投棄」(34.5%)、「ペットや鳥の排泄物」(25.1%)、「電柱・電線・携帯電話基地局アンテナ」(18.1%)となっています。
- 平成27年度と比較すると、「電柱・電線・携帯電話基地局アンテナ」は3.9ポイント、「ゴミやタバコのポイ捨て」は3.8ポイント増加しています。
- 「ゴミやタバコのポイ捨て」と答えた人は、『地域3(中部)』が最も多く、次いで『地域6(南西部)』となっています。
- 「道路や河川の雑草」と答えた人は、『地域5(南東部)』が最も多く、次いで『地域2(西部)』となっています。
- 「不法投棄」と答えた人は、『地域6(南西部)』が最も多く、次いで『地域3(中部)』となっています。
- 「ペットや鳥の排泄物」と答えた人は、『地域1(北部)』、『地域2(西部)』、『地域3(中部)』で多く、『地域4(東部)』、『地域5(南東部)』、『地域6(南西部)』で少なくなっています。
- 「電柱・電線・携帯電話基地局アンテナ」と答えた人は、『地域2(西部)』が最も多くなっています。一方、『地域6(南西部)』では他の地域と比べて少なくなっています。
- 景観を守るため、行政が力を入れて取り組むべきことは、「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」(60.4%)が最も多く、次いで「景観を守ることに住民一人ひとりの意識を向上させる」(39.1%)、「建物や広告物などが景観を損なわないよう誘導・規制する」(31.9%)となっています。

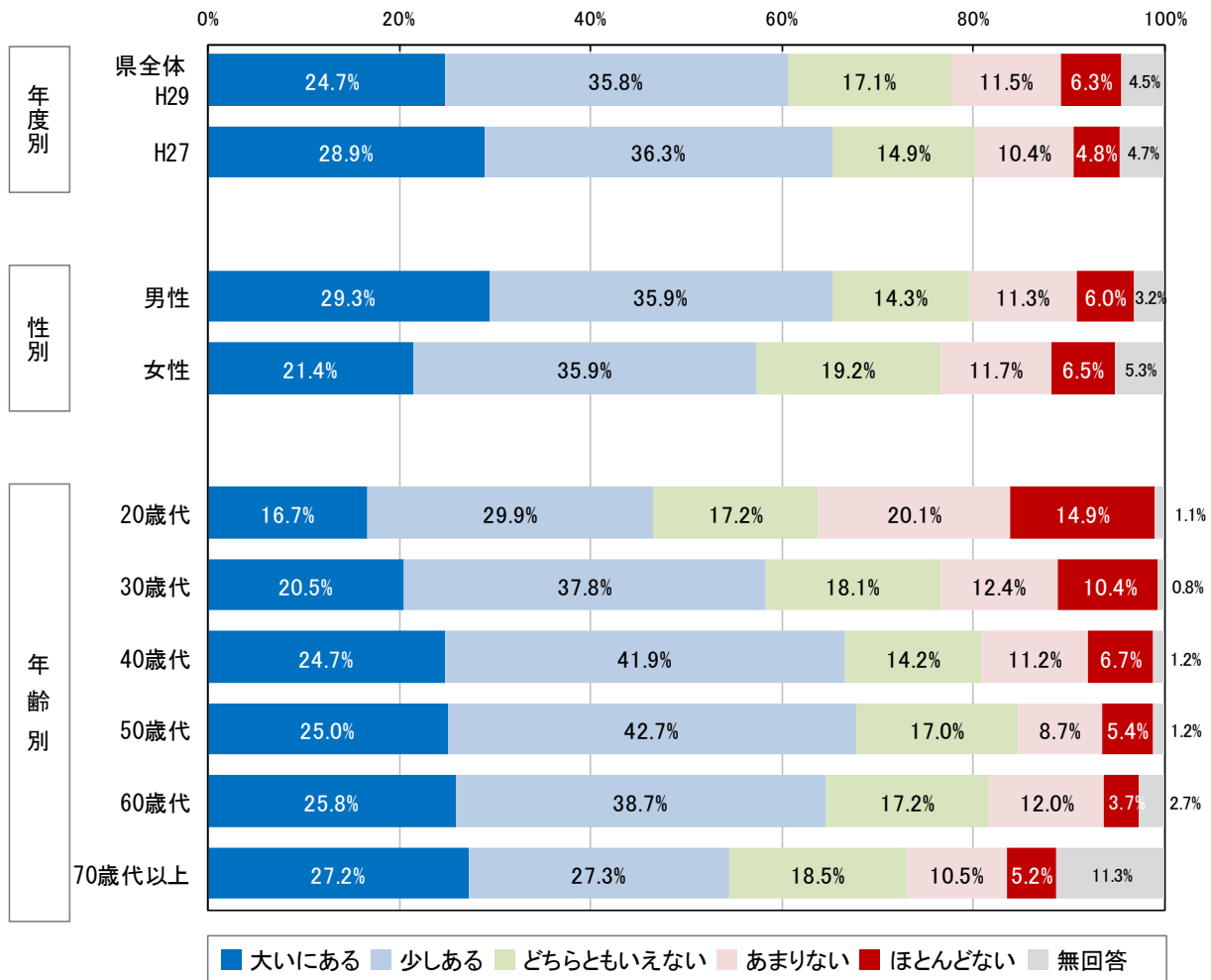




## 12. エネルギー政策の推進について

### (1) 「再生可能エネルギー等の利活用」への関心 (問 40)

- 再生可能エネルギー等の利活用への関心は、「大いにある」または「少しある」と答えた人の割合(60.5%)が、「あまりない」または「ほとんどない」と答えた人の割合(17.8%)を大きく上回っています。
- 平成 27 年度と比較すると、「大いにある」または「少しある」と答えた人の割合は 4.7 ポイント減少し、「あまりない」または「ほとんどない」と答えた人の割合は 2.7 ポイント増加しています。
- 性別にみると、「大いにある」または「少しある」と答えた人の割合は、『男性』(65.2%)の方が『女性』(57.3%)より7.9 ポイント多くなっています。
- 年齢別にみると、「大いにある」または「少しある」と答えた人の割合は、『50 歳代』(67.7%)が最も多く、次いで『40 歳代』(66.6%)、『60 歳代』(64.5%)となっています。一方、『20 歳代』では「あまりない」または「ほとんどない」と答えた人が3割以上を占め、他の年代と比べて関心の低い割合が高くなっています。

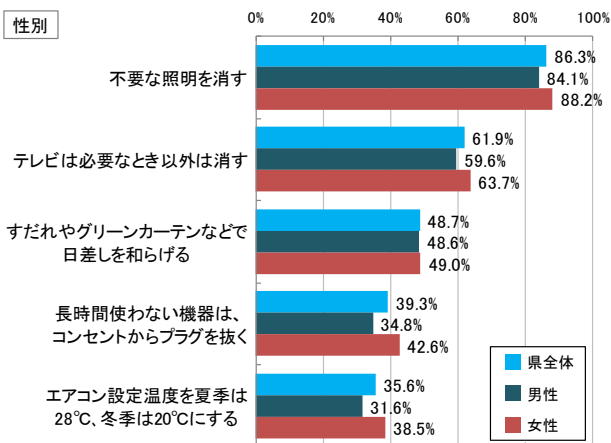
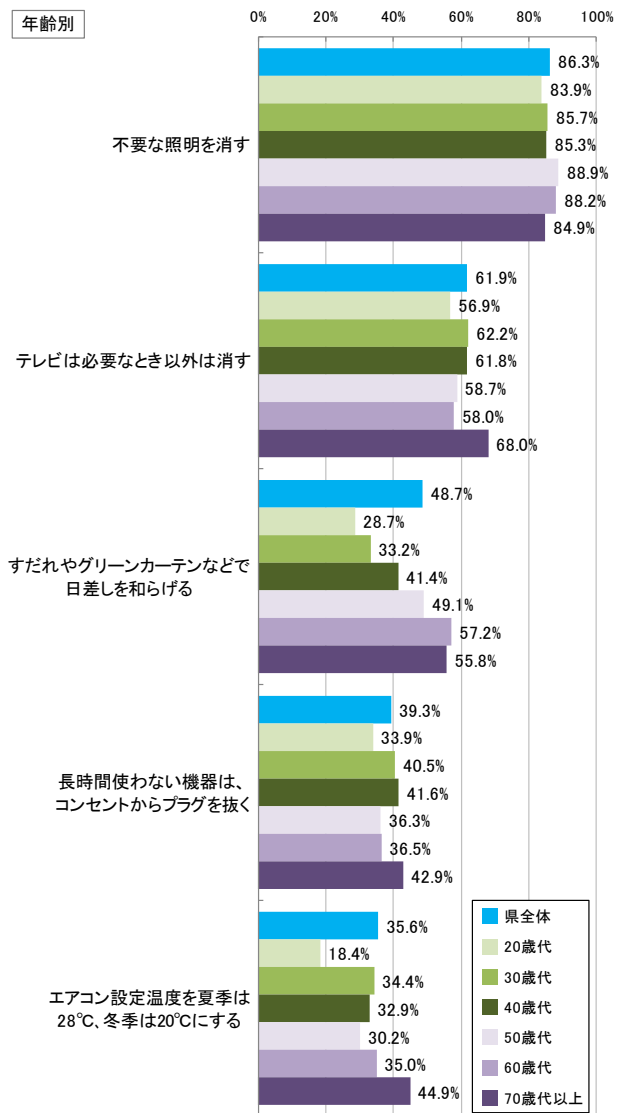
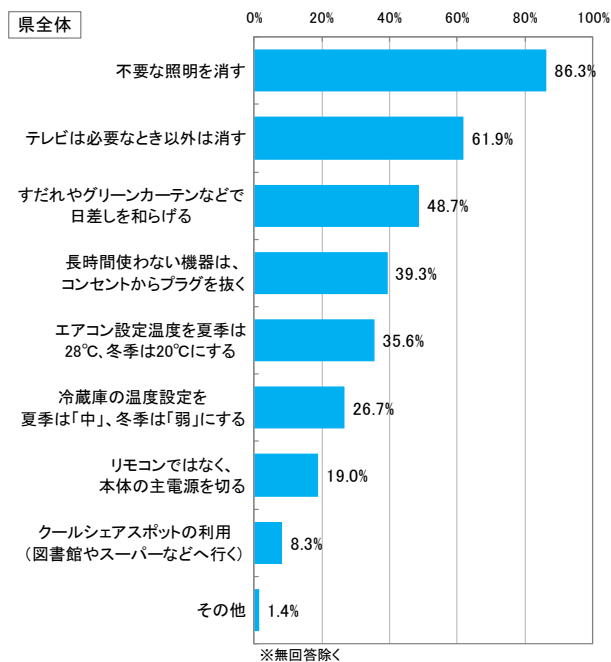


※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

## (2) 省エネ・節電のための日常的な取組状況

(問 42 複数回答 性別・年齢別は県全体についての上位5項目を掲載)

- 省エネ・節電のため、日常的に取り組んでいることは、「不要な照明を消す」(86.3%)が最も多く、次いで「テレビは必要なとき以外は消す」(61.9%)、「すだれやグリーンカーテンなどで日差しを和らげる」(48.7%)、「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」(39.3%)、「エアコン設定温度を夏季は28℃、冬季は20℃にする」(35.6%)となっています。
- 県全体についての上位5項目を性別にみると、5項目ともに『女性』の方が『男性』より多くなっています。
- 「不要な照明を消す」と答えた人は、年齢別では『50歳代』が最も多く、次いで『60歳代』となっています。
- 「テレビは必要なとき以外は消す」、「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」、「エアコン設定温度を夏季は28℃、冬季は20℃にする」と答えた人は、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「すだれやグリーンカーテンなどで日差しを和らげる」と答えた人は、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 一方、5項目ともに『20歳代』が最も少なくなっています。



# 13. 回答者に関すること

## (1) 奈良での居住理由 (問 50 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

■奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(35.3%)が最も多く、次いで「結婚したから」(25.6%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(23.0%)、「家を継ぐため」(20.6%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(9.2%)となっています。

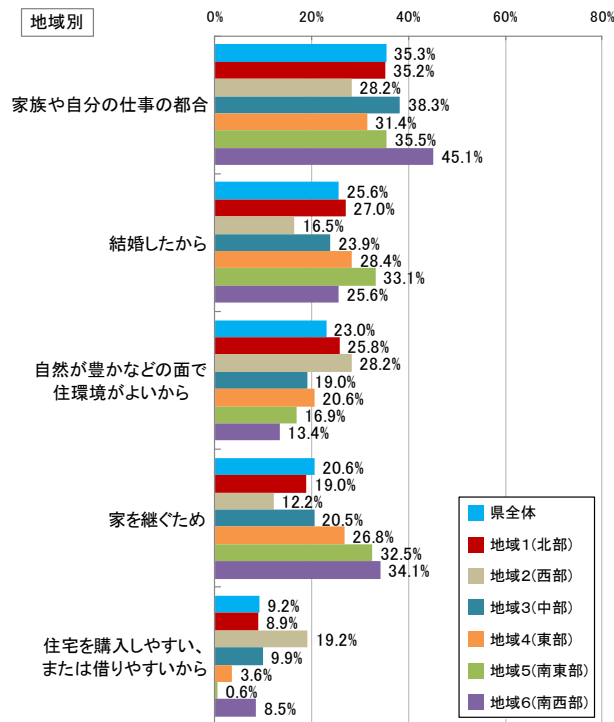
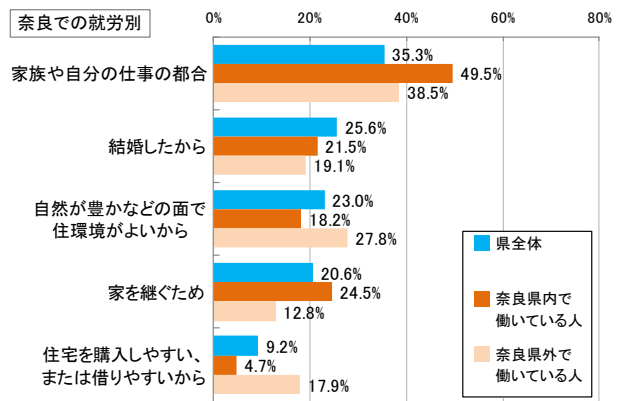
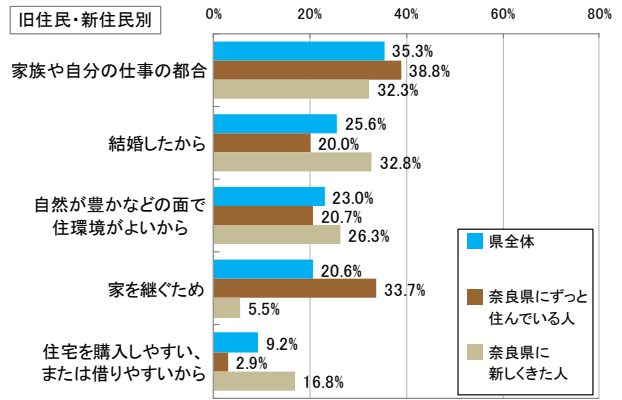
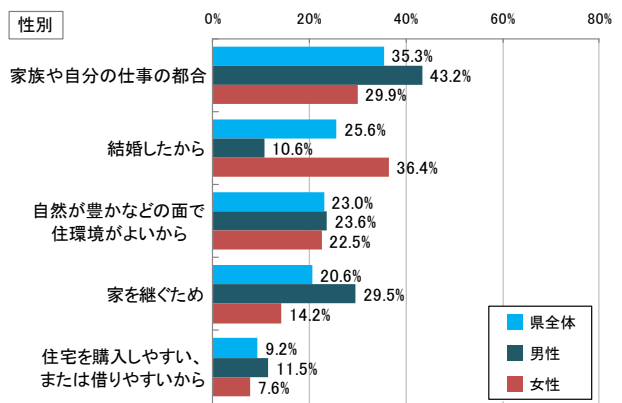
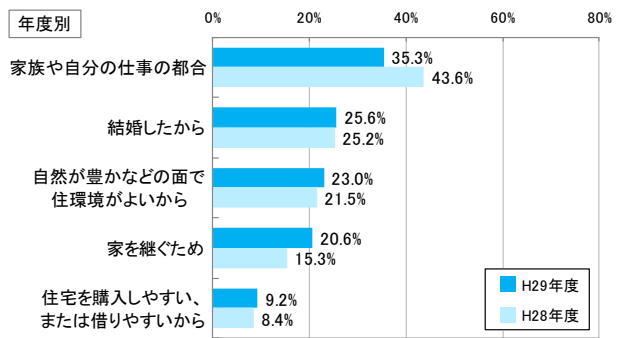
■平成28年度と比較すると、「家を継ぐため」と答えた人は、5.3ポイント増加しています。一方、「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、8.3ポイント減少しています。

■「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

■「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、次いで『地域5(南東部)』となっています。性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。



---

平成 29 年度  
県民アンケート調査  
報告書  
＜概要版＞

平成 29 年 11 月

奈良県総務部知事公室統計課  
〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地  
電話 0742-27-8439

---